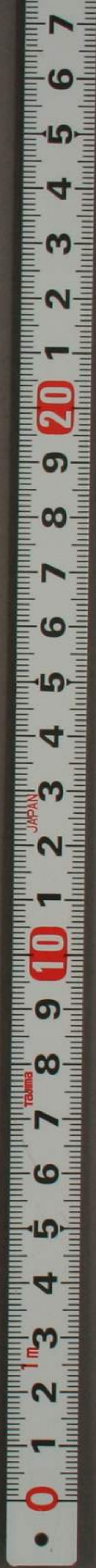


JL 4
3218
12





戸塚

今高田小属す古ハ此地の惣名とす北条家の分限帳

恒岡彈正忠牛込少く富塚の地を領す

富塚

戸塚ハ狐塚を誤り唱ふ也又此辺昔古塚多あり

百八塚

今其所在ささるる里老傳へ云往古昌蓮と

佛小供養

の為此高田の辺より大久保迄の間と

築く

今ハ悉く其所在と

按中野村熊野十二所権現の別當ニ成願寺と

莊司重邦の後裔鈴木九郎と

九郎大正と改む

又石と正蓮と改む

高田天満宮 同所八幡宮より馬場の方へ行道の左側あり別當を

昭和九年
七月六日
購本

真言宗中々真定院と号し神躰ハ菅神手造の靈像あり

一寸八分ありと云相傳ハ寛永の頃 大樹此神像と大橋立慶

賜ハ此立慶ハ入道堪能の人中々大橋流筆法の始祖あり

息男大橋長左衛門重政流筆法あり一家を是世前ハ所傳大橋

流と稱せり 依之立慶當社と建之 神前ハ懸る所の戸帳ハ其旨

趣を記し置との事 當社の旧地ハ牛込浦松寺の辺り今天神町と唱ふる地

記せし次ハ祐筆大橋立慶ハ高田大友の屋敷と云ふ又菅神の真筆の佛徑

を収むる由云つと社前ハある所の龍神及び鬼子母神を石像ハ

昔此地ハ経蔵あり一頃守護の為ハ造立せしとの事

按ハ當社の傳ハ大橋立慶 大樹よりたその所の菅神の像と一社ハ奉せ

とあり旧地ハ天神町と号し土人浦松寺の地昔ハ大橋氏の宅地なりとの事南向

亭茶話云大友宗五郎義延自らの宅地ハ大宰府の天満宮を造りて其の南向

地を天神町と号し後高田ハ移りて大橋長左衛門奉仰の三十六歌仙の僧

とも今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

とあり今猶存あり再び被ハ元禄二年開校の江戸鹿子ハ二百余年ハ及ハ

高田馬場

同ハ北の方ふあり追廻一と稱し二筋あり豎ハ東西ハ

六町ハ横の幅ハ南北ハ三十余間あり相傳ハ昔右大将頼朝卿隅

田川より此地ハ至リ軍の勢揃あり一旧跡なりと云ふ土人の説に

慶長年間越後以將 忠輝卿の沙母堂高田の君遊望の殿とて開を

ら之の芝生なり一寛永十三年ハ至リ今の如く馬場を築りせ終ハ

弓馬調練の所となし一の如くなり

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

たりとの事又云北の馬場ハ武田信玄ハ道小田原の北条朝長を討つ

高之田馬場



和^と田^た戸^と山^{やま} 尾^ひ陽^{やう}君^{くん}彦^{ひこ}館^{たね}の地^ちなり是^{これ}を戸^と山^{やま}彦^{ひこ}邸^{てい}と云^いふ

傳^{つた}ふ此^{この}地^ちハ往^{むか}昔^{むかし}和^と田^た戸^と何^{なに}某^{あつ}と云^いふ武^ぶ士^しの住^すみ所^{ところ}也^{なり}

大^{だい}將^{しやう}頼^{らい}朝^{あさ}卿^{けい}隅^{ぐも}田^{でん}川^{がわ}より此^{この}地^ちに至^{いた}り

和^と田^た戸^と第^{だい}一^{いつ}入^{いり}の軍^{ぐん}勢^{せい}の

南^{なん}尾^び州^{しゅう}彦^{ひこ}山^{やま}屋^や鋪^ぽへ行^い方^{かた}の畑^{はたけ}の中^{なか}ハ一^{いつ}條^{じょう}の道^{みち}あり

上^{かみ}古^この鎌^{かま}倉^{くら}海^{かい}道^{だう}なり

荒^あ藪^{くさ}山^{やま} 同^{どう}所^{ところ}戸^と山^{やま}と大^{だい}窪^{くぼ}諏^す訪^{ぼう}の森^{もり}との間^まを以^もつ

雲^う雀^{すわく}の名^な所^{ところ}なり

山^{やま}吹^ふの里^{さと} 高^{たか}田^たの馬^ま場^ばより北^{きた}の方^{かた}の民^{たみ}家^かの辺^へを

向^{むか}利^り相^あ傳^{たづ}太^{たい}田^{でん}持^ぢ資^し江^え戸^と在^あ城^{じやう}の頃^{ころ}一^{いつ}日^{にち}戸^と塚^{づか}の金^{かね}川^{がわ}辺^へ

放^{はな}鷹^{たか}を時^{とき}携^{たづ}つ鷹^{たか}飛^と去^さる

小^{せう}女^{にょ}出^い盛^{さか}なる山^{やま}吹^ふの花^{はな}を

詞^{こと}を以^もつ持^ぢ資^しを意^いを悟^{さと}る

帰^{かへ}近^{きん}臣^{しん}小^{せう}事^じのあり

なまきと

七^{しち}重^{じゆう}八^{はち}重^{じゆう}の和^わ奇^きの道^{みち}を慕^もふ

深^{ふか}く恥^{はぢ}しく後^{のち}和^わ奇^きの道^{みち}を慕^もふ

此^{この}七^{しち}重^{じゆう}八^{はち}重^{じゆう}の和^わ奇^きハ後^{のち}拾^{しつ}遺^い集^{しゆ}小^{せう}中^{ちゆう}務^む卿^{けい}兼^か明^{めい}親^{しん}王^{わう}の詠^{えい}と

小^{せう}倉^{くら}の家^{いへ}住^すみ

按^あはし山^{やま}吹^ふの里^{さと}の

神^{かみ}奈^な川^{がわ}の

流^{なが}る

是^{こゝ}を

三^{さん}島^{しま}山^{やま} 同^{どう}所^{ところ}民^{たみ}家^かの後^{のち}園^{えん}あり

明^あ神^{かみ}の禿^{かぶ}倉^{くら}あり

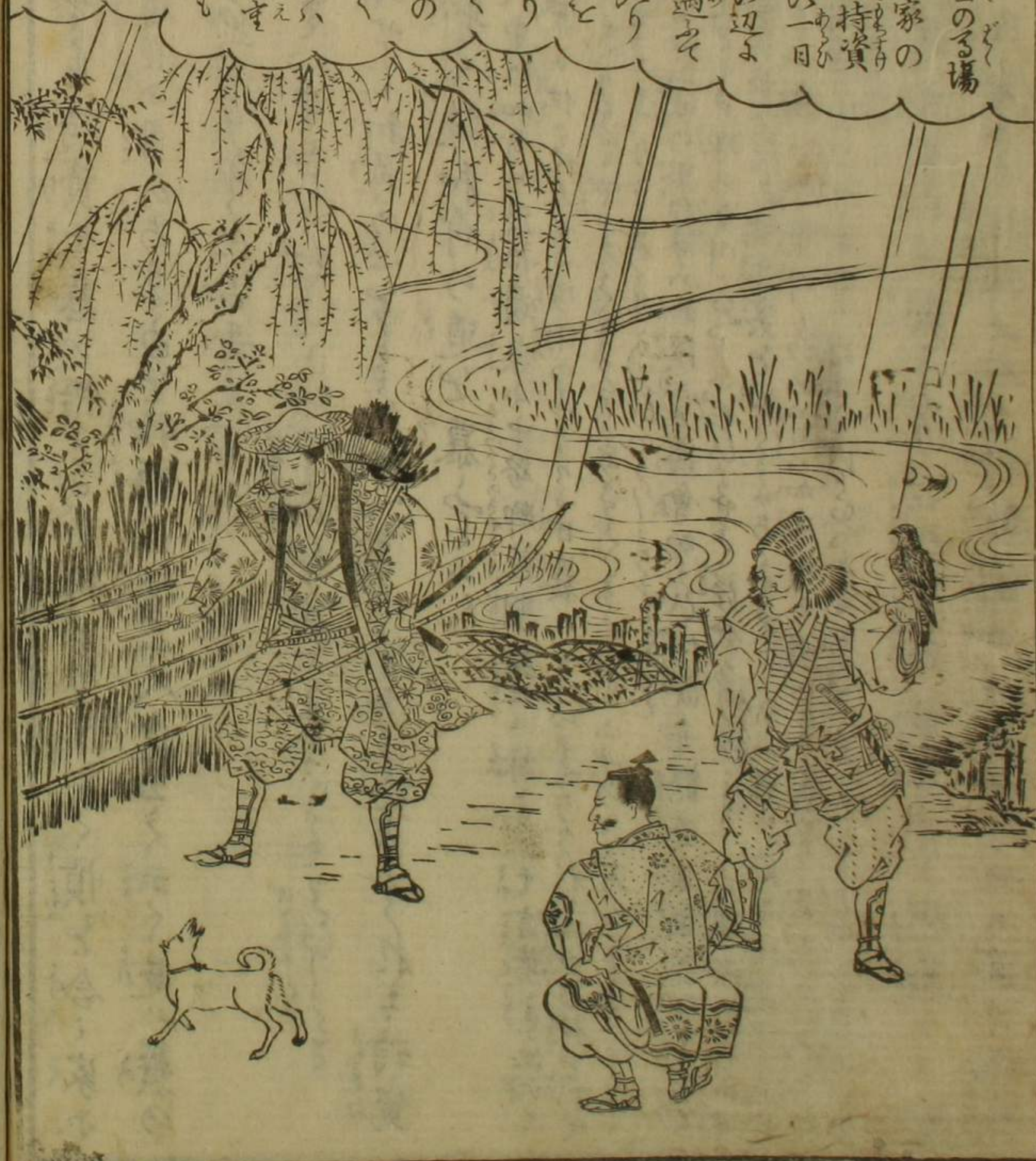
古^こ松^{しょう}四^し五^ご株^{くさ}繁^{さか}茂^{さか}せる

樹^{じゆ}蔭^{いん}ハ三^{さん}嶋^{しま}

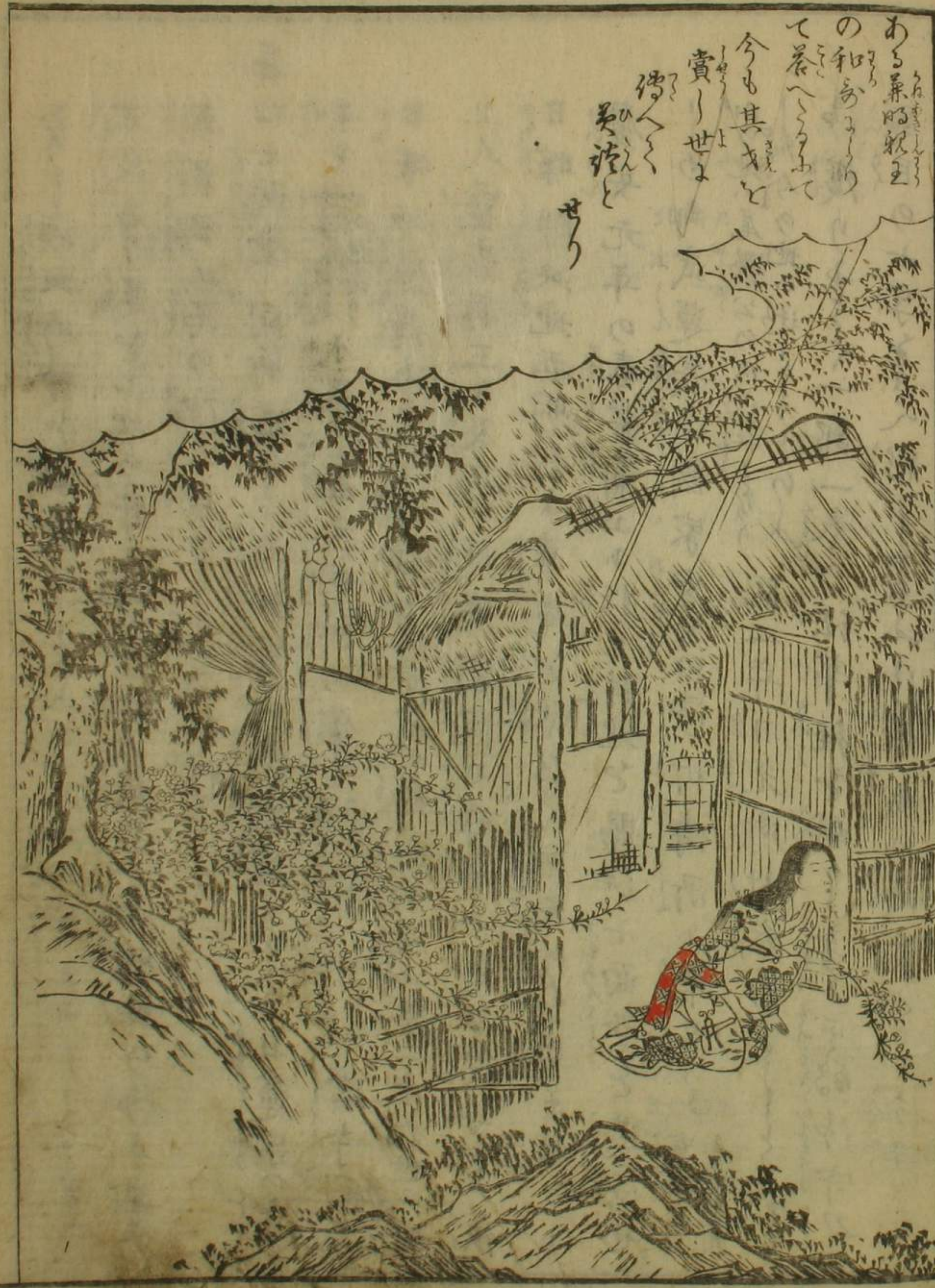
明^あ神^{かみ}の禿^{かぶ}倉^{くら}あり

相^あ傳^{たづ}み

山吹の里ハ古田の場
 より北の方民家の
 辺をの昔を田持資
 江城あり一日
 此戸塚の金川の辺
 放鷹ハ急雨は過
 傍の農家ふ入り
 簑とあらんると
 も小時小肉より
 小女出て病は多く
 参りたる山吹の
 花一枝とそとく
 持資小捧くあは
 後拾遺集小七
 八重花さけとも
 心原のものひと
 うらなきそ
 うらなきそ



ある兼昭親王
 の和歌あり
 て茶へくちあて
 今も其歌と
 賣し世よ
 傳くく
 英彦と
 せり

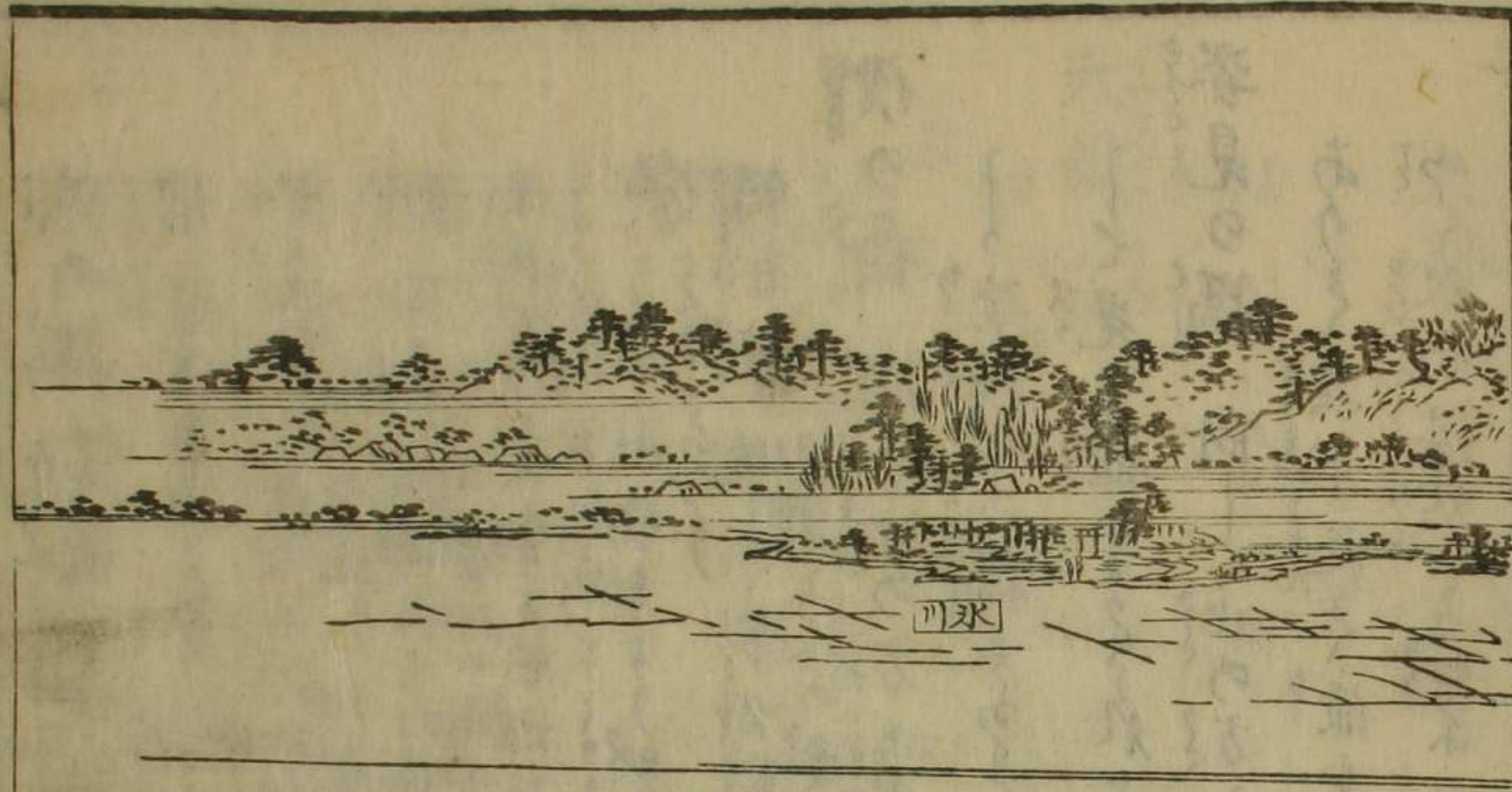


山吹の井



ありし頃此御神を勸請なりしと云々此山岸より必しその
 甘泉あり是を山吹の井と号し土人或は三島明神の浄手洗又
 頼朝卿の馬の冷し場なりともいひ傳へたり
 高田七面堂 同所道より左如意山亮朝院とある日蓮宗の寺
 安を 甲州身延本尊七面大明神の像を 身延山の七面堂と
 同本所作なりと云 當寺崩山
 日暉師感得ありし靈像なりとの縁起云延山第二十六世日境
 上人靈告再三及の後亮朝院日暉師是を授与す依
 日暉師此地五明村に草庵を結ひし此本尊を安を然る小
 慶安元年の春荒蒲山に於て社地を賜ひ七面堂を造営せ
 し御武運長久國家安全の浄祈禱所と命せし
 寛文十一年荒蒲
 山の地は尾陽公の山荘となり 同二年日光御社奉ありしと云
 浄獲りしと云一部一巻の法華経を献しし其の浄守刀
 題目の七字と云彫しありし浄婦城の後泰くし浄経の表





しとの傍



橋見姿

橋見姿



紙の裡は七面大明神と伊深筆ありて伊深とて書添られ

當寺小ありて今猶ほく當寺三種の

世尊堂 堂内小釈迦如来

朝日堂 朝上人の像を安んず此堂内小於て修行する所の常題目法善院

衆院日了上人常は眼病を患ひて日朝上人の寄願し平愈せり

朝日櫻 朝上人の愛樹ありと云り

傍の橋 同北の方上水川小架を長十二間余あり昔ハ板橋あり

近頃ハ土橋とあり 此橋を姿見の橋と思ふ 此辺の壘ハ形大

しく光り他ふまされ

姿見の橋 同北の方架せる小橋を号く昔ハ此橋の左右に池

ありて其水は流る故に行人視れば鏡の面ハ相對する

ゆく水面湛然とる知小名とせり或ハ寛永の頃

大樹此地へハ放鷹の時鷹翦るる此橋の辺ゆく見出

あひく 台命ありて此名を唱せられ 此里移小云信又土

鏡山南蔵院 砂利場村あり真言宗中々大塚の護國

寺は属也 當寺を大鏡山と号く昔此寺前ハ大池ありて鏡

大樹ハ放鷹の頃當寺の垣根を此所彼所より分けせり

佛ハ聖德太子の作中々立像三尺四寸あり此靈像ハ秀衡の

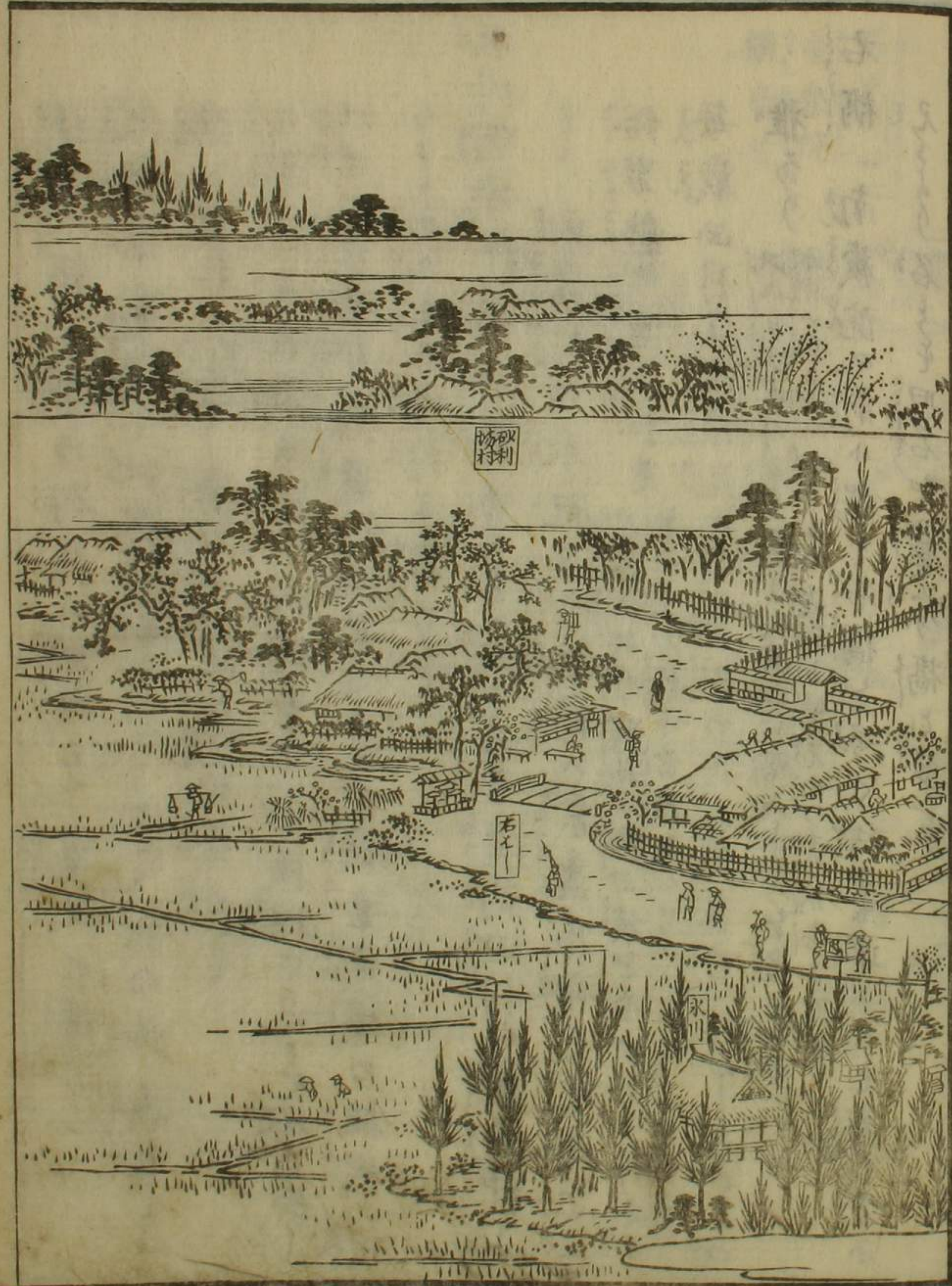
念持佛なりとて養和年間の頃迄ハ奥州平泉にありて

圓衆比丘諸國遊化の時靈夢を感じ彼地の農家に

是を得る此地に安置せり本堂外陣は掲げ

たる藥師堂三大字の額ハ蓮華光院大僧正道恕の筆あり

徳門の額ハ大鏡山と書せり同筆あり當寺某師堂の



高田
南蔵院
鶯宿梅
氷川社
右橋



宿坂関旧址
金泉院
観音堂



後小大橋立慶の別荘の旧跡あり寛永の頃ハ
大將軍家度々此小入らせあり〜〜〜假の沙殿なるも
構へ重れ〜〜〜昔ハ此地小鶯宿梅〜〜〜
大樹沙手自裁あり〜梅樹あり〜〜後枯〜〜〜今ハか
此地ハ昔鎌倉街道の通路なり〜〜〜鎌倉街道の楓樹と号
〜〜〜の今その境内ニ存せり

氷川明神社 同寺前道より左ニあり下高田村の産土神ニ

〜〜南藏院の奉祀なり祭神ハ素盞烏命あり是と土
俗男躰の宮と称も 落合の氷川明神ハ稲田媛と祭れ是より女
每歳正月十日祭礼〜〜奉射の式あり甚質掛〜〜古

雅あり 此の山は此の川より夷子大黒砂と唱ふ〜〜の産を此砂ハ
水中に住す此の化を由近江古繁先生の雲根志より

右橋 南藏院の前小架も石橋を号く往々還々ゆも右の方小

〜〜のり名をも旧名を藁塚橋と号す

院衆金

坂宿

此標石
の少路
を修て
はる

氷川明神社 同申酉の方田島橋より北杉林の中よりあり祭神奇

稲田姫命一座なり是を女躰の宮と稱せり同所某王院此

持なり 高田の氷川明神の祭神素盞鳴婦の宮土俗ありまの在原業平あり二条後の靈を祀る甚北あり

七曲坂 同所より前山の方へ上る坂をの曲折あり名と此辺ハ

下落合村に属せり

落合土橋 同所坤の方上落合より下落合へ杉道は架け土人云

田島橋より一町をく上玉川の流と井頭の池の下流と會流

此あり此は不落合の名ありと云

按北条家の所願役帳に奥津加賀守あり太田新六郎石領の中は江戸落合の名を記し長野六郎又鈴木分の地を領せりあり神田の

瀨田より越く玉のゆく又星のゆく乱を恐る光景最奇とを夏

月夕涼多し

奥州橋 同寺の乾の隅に架む土橋をいへり往古の奥州海道ハ

水神の社の上通り黒田家の邸園に今も松の列樹あり

其旧跡なりと云

宿坂関之旧跡 同北の方金衆院と云密宗の寺前を四谷町此

方へ上る坂口をの寺の裏門の辺に絶の平地あり土人云

てそとと云 此地ハ昔の奥州街道やと云頃関

門のありと云 或人云此地ハ関守の八重塔といふ者ありと家に

木花開耶姫社 同所小坂の中版あり

此坂を清玄坂と云 按中記ハ富土茂間宮の祭神ハ木花開耶姫と云

當社の額木花開耶姫命の六字ハ水戸黄門光國卿の親筆

なり今別當金衆院に傳ふ

藤社稻荷社 同所岡の根に傍りあり又東山稻荷とも稱せり

頗参詣の徒多し落合村の某王院奉祀也

泰雲寺
古事



黄龍山泰雲寺

同所上落合あり黄檗派の禅林あり花洛
 萬福寺は屬を女孺如意輪觀世音の像天然の石仏あり
 當寺の土中より出現ありといふ
 荆山は白翁道泰和尚と号し
 本庵和尚の法嗣中々二世ハ了然尼あり
 了然尼の師なり
 當寺を興復し十山和尚の師鐵禪和尚
 鐵禪和尚の法弟あり
 中興の開祖とせし徳門小掲くを額に泰雲寺とあり
 黄檗
 本庵老人の書なり當寺第二世了然禪尼ハ泰雲院元徳和尚と
 号し性ハ葛山氏駿州富士の大宮司葛山十郎義久の子同長次郎
 とのつら女なり
 長次郎ハ京師泉涌寺の前ハ閑居し茶事を好み古画を
 鑑定せし又了然ハ植山始大内小仕へ名を寄生と号し
 十卷と号し儒臣の母ありあり可考
 江戶砂子ハ了然尼ハ東福門院小仕へ仕へせし
 後仕を辞し家小帰る
 江戶砂子ハ了然尼ハ東福門院小仕へ仕へせし
 人あつて婚儀を整へ松田何某とのつら醫生の許に嫁せし
 江戶砂子小松田
 男女子三人を生り
 新著聞集より三十余歳の時男三人の
 子を産ませしあり長男後小葛山長十郎と
 晩翠とあり



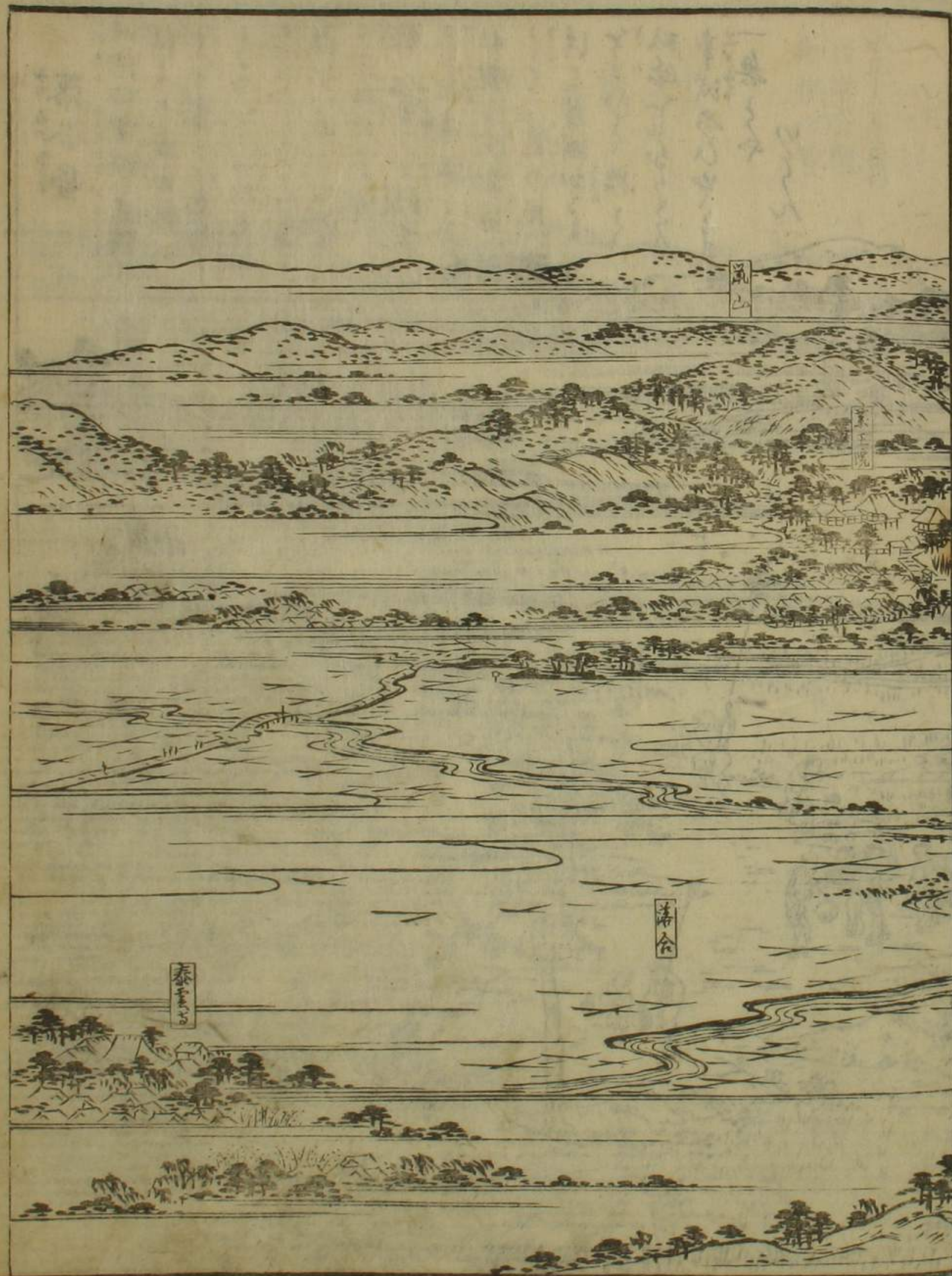
藤森
稲荷社
東山
いもり
いもり



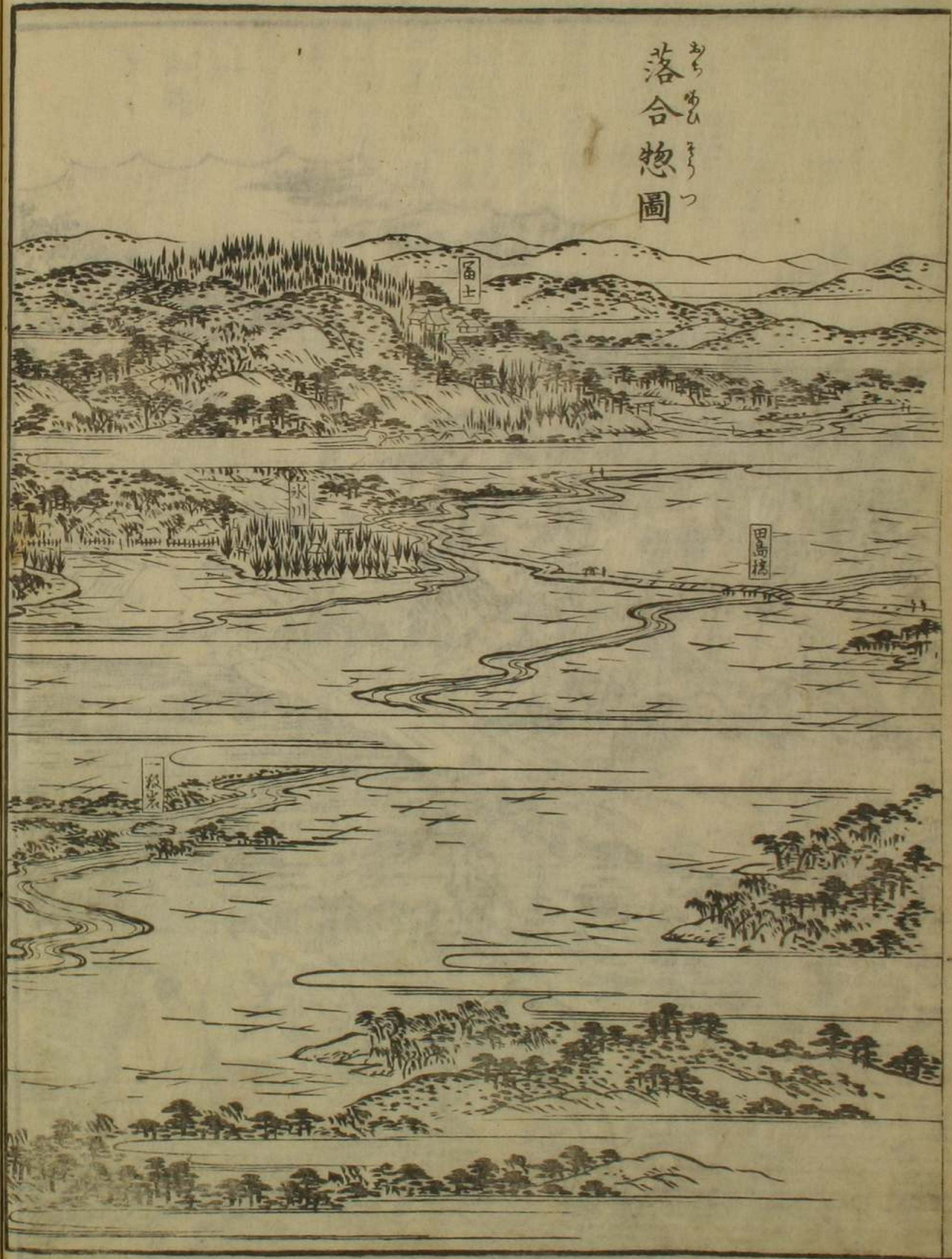
一枚岩

落ちの近傍神田
 上水の白塩もよ
 あくく一堆の巨
 巖水面小彰れ
 藍水巖頭よ
 ぬれて花濺を
 ろすあまうとくわ
 此水流不鳥居
 淵扉う淵等
 その隙小名多
 此をハ好く
 月の名をわ
 秋夜
 出舞
 あ



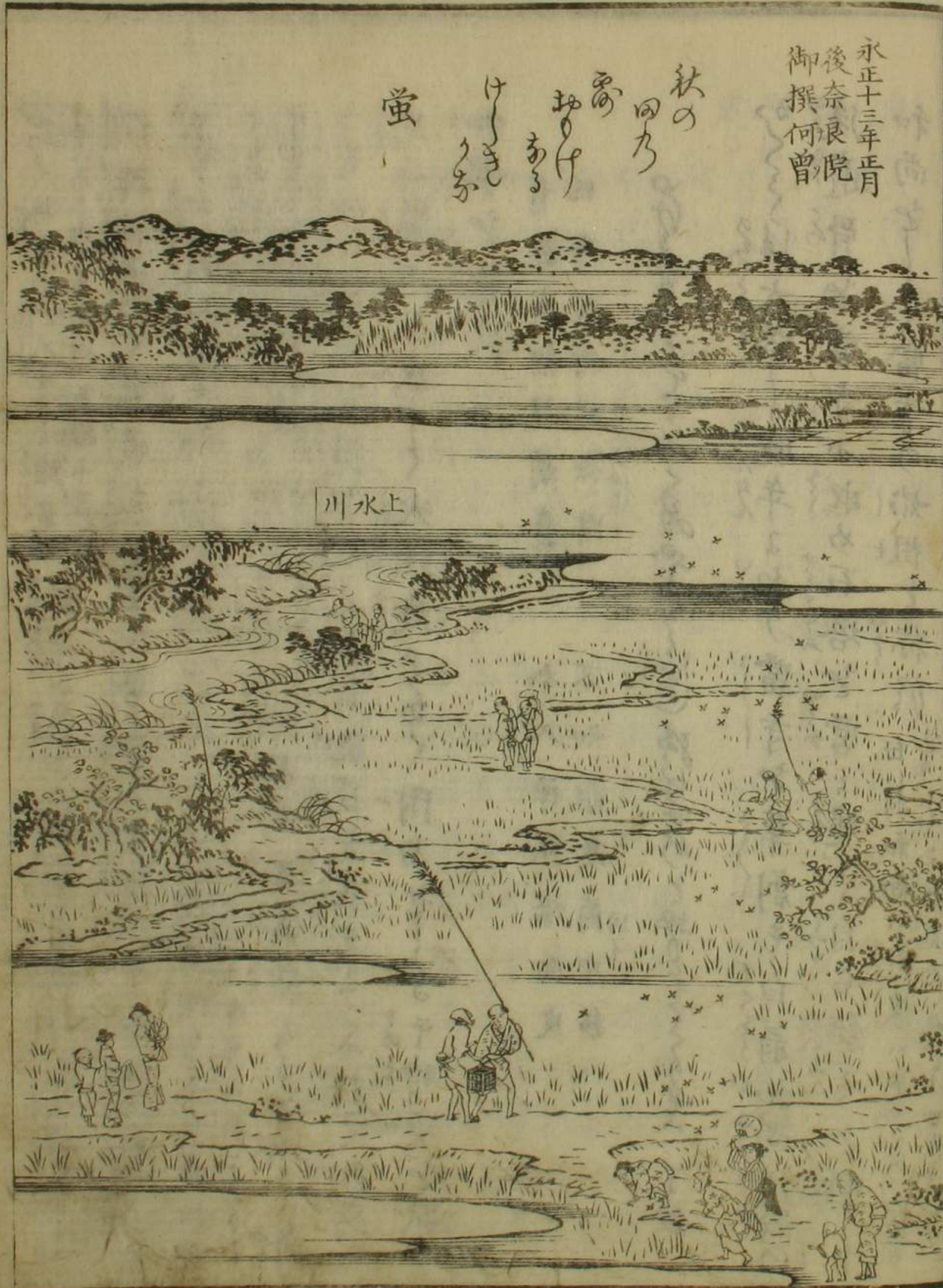


おちあひ
つ
落合惣圖



永正十三年正月
後奈良院
御撰何曾

秋の
田乃
あけ
あき
けしき
虫



落合螢

此地の螢は昔は此の
様より長きもの
近と螢は長き
ものなるはあはれ
飛ぶとてはあはれ
遊人等とては
あはれ道邊に
壯観とす花涼
しく人定り風
清く月朔あま
りひびく
返路とてはあはれ
事成ふはあはれ
一無とや
りせん



名づく林家の門人なり博覧の後夫ふ告く蘿深く臨済黄檗等此
諸禪林に入りて泰道怠りなく務竟り天和元年辛酉の冬大江
下り白翁和尚を見え法を求めんとせんとし
と由紫の一本やを白翁和尚ハ本庵の徒弟
中々も項駒に任せられしなり
さきを依了然尼火攪を焼く自ら面皮を焦せしむるに於て和尚
尼の懇志を感へて大法残るべく附与せしむる時頌を賦し
和歌を詠は

昔遊宮裡焼蘭麝
四序流行更無跡

今入禪林燎面皮
不知誰是箇中移

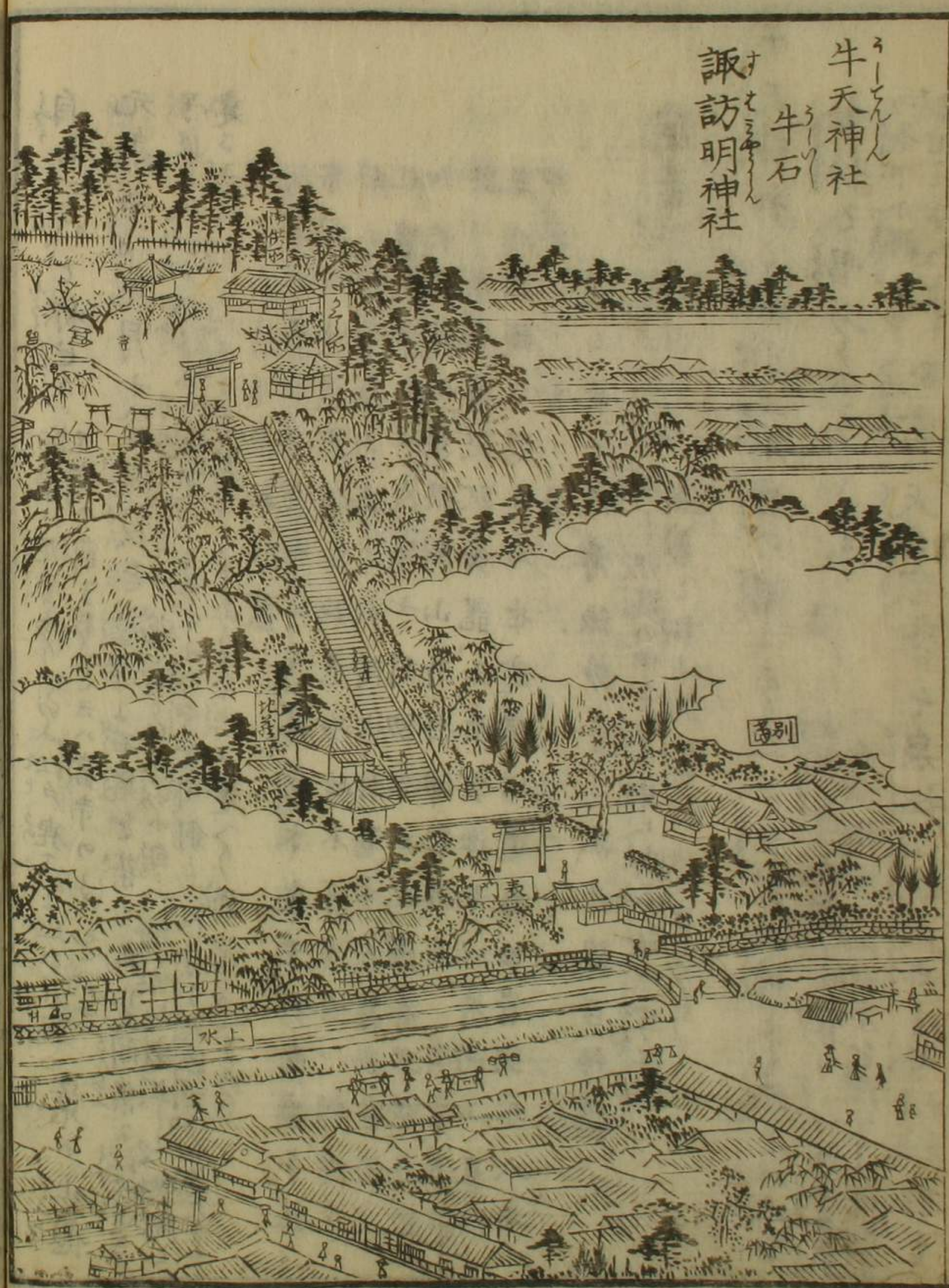
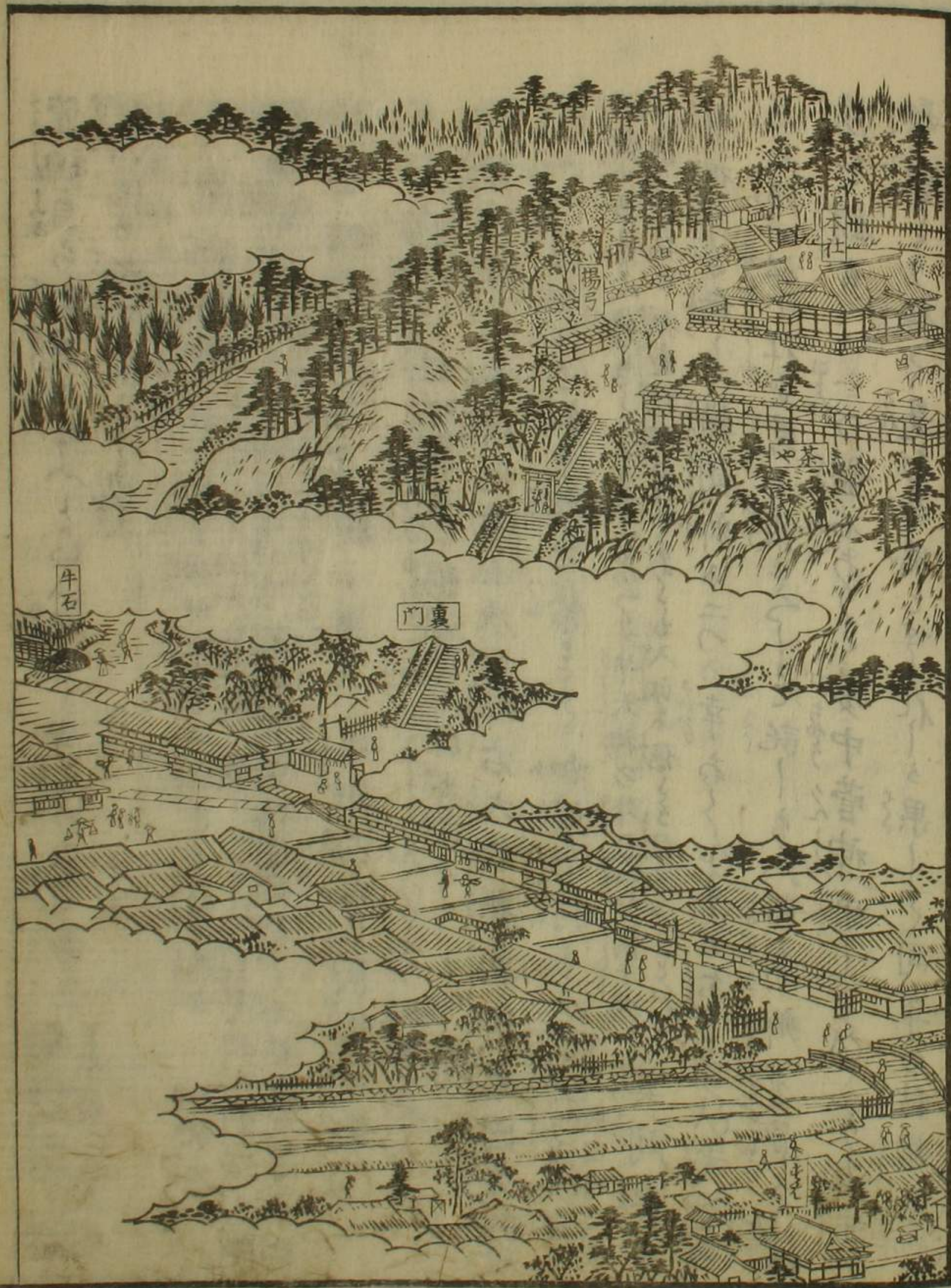
つげふふまそくそめやううほの影とゆりてさへ了然

か〜後大悟〜晩年より當寺を草創し白翁和尚化寂の
後遺骨を當寺に収め石塔を營て建てる自ら銘文を製し
和尚と〜當寺の始祖と稱は 白翁和尚の肖像ハ左の
自ら二代と稱せり 尼寺の前より云ハ當寺のより云ハ
元年辛卯九月十八日飯寂を 當寺に石塔を築く新著聞集ハ江戸迄
号は又江戸秋子小然尼市谷の末小尼寺を創創し彼寺ハ夫晩翠の墓と
建てる額ハ此尼の跡なりとありて共小違へり猶考へて之を

開山白翁道泰和尚墓
宗説共通機用叙話孤危峻不可湊泊一朝因事
辞三州竹篦山嘉道武陵大林庵未幾罹病書偈坐
化實天和二壬戌年七月初三日申日也總等不堪悲歎
如法茶毘但恨無閑山所因伸早誠於官家終蒙
許可再興慶院改黃龍山泰雲禪寺以為開山鼻祖
奉酬法類之恩之令也建骨塔遺萬世皆寶永八年
卯年七月初三日 當山弟二代傳法弟子了然元總百拜識

蘭臺井先生之墓 同明塔の中あり井上氏名通照字子叔
嘉善と稱を岡山侯の儒臣なり

牛天神社 小石川上水堀の端あり一小金杉天神と稱此地を
金杉と唱ふふより〜号く 金杉古ハ金曾木ハ作る小田原北条家
の条下小詳あり別當ハ天台宗ゆ〜泉松山龍門寺と号し神跡と
合せしむる一



牛天神社
牛石
諏訪明神社

牛石

裏門

陽弓

別

水上

菅神自ら彫造し、その長六寸あり。當社の旧地ハ社地より東の方今

水府君の邸中に入ると神木

降魔狗社壇に収む鎌倉佛師運慶の作ありとのみ往古大猷公

華表鳥居の額ハ頼常額天満宮近衛内大臣家熙公筆

牛石裏門坂の下り口隅の方ある巨石をこきり名づく次の社記の条下

社記云往古壽永元年壬辰の春右大將頼朝卿東國追討の時此所の入江の松小舟を繫ぎて和波を待たし

入瀨のありし續きありしなり天神の外を細干坂と其間夢小

菅神牛に乗し頼朝卿小二つの幸ありしをふし武運満

足の後ハ必小社を営み報まると託し頼朝卿夢覺る後

傍を顧みしハ一の盤石ありし夢中菅神乗しありし牛小

髻鬘より依る是を奇異とせしなり果して同年の秋頼家卿

誕生あり又翌年癸巳の夏ハ動うけり平家悉く敗るハ其報

賽とて元暦元年甲辰此神を此地ハ勸請ありし神領等

寄附ありしと云云又江戸名勝志に草紙北条氏康兵を起し

諏訪明神社 同所上水堀より南の方諏訪町あり祭神ハ健御名

方命なり相傳ハ明德元年庚午牛天神の別當梅本坊衆觀

法印靈告ありあり勸請なりと云云土人云此地旧名を忍

木の森と云つり梅本坊ハ今の竜門寺是なり祭礼ハ毎歲正月と

慧日山金剛寺 同所上水堀の端あり曹洞派の禪刹あり駒込

吉祥寺ハ屬せり昔ハ臨濟宗なり永正本寺ハ釋迦如来岡山を

天目忠峯普應國師中興ハ用山和尚とのみ

鎌倉右府將軍實朝公碑後山の半腰あり永正の頃建立

惠日山金剛禪寺者始波多野中務忠経為鎌倉右

府將軍實朝公菩提建長二庚戌年建立相州波多

水川明神社



日輪寺

本寺法寺

此邑
林田
上水
あり

金剛寺



笑朝院

鐘樓

小日向水端
道祖神祠



野莊田原村後江戸下野八道心移寺於武州江
戸莊小日向郷金杉村亦其後文明年中太田左衛
門入道静勝軒春苑道灌重興焉青日者臨濟宗也
其時之開山普應國師二代巨舟和尚中興叔悦禪
師永正六年己巳年改曹洞宗者也維時永正十癸酉
年七月十日金剛現住比丘實山叟記之

金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪定門

兼久元己卯年正月二十七日

地藏堂

同山の頂あり天竺佛あり頼朝卿鎌倉因覺寺此
地は移し置あり後金剛寺と共此地は持し一宇を建立あり彼

當寺

ハ波多野中務忠經棟鑑不中務丞忠經と云名あり諸家系圖不
改志徑ハ鎌倉將軍實朝公の菩提を弔ひしる爲建長二年

庚戌

相州波多野莊田原邑に造立せし所の精舎なり後江戸

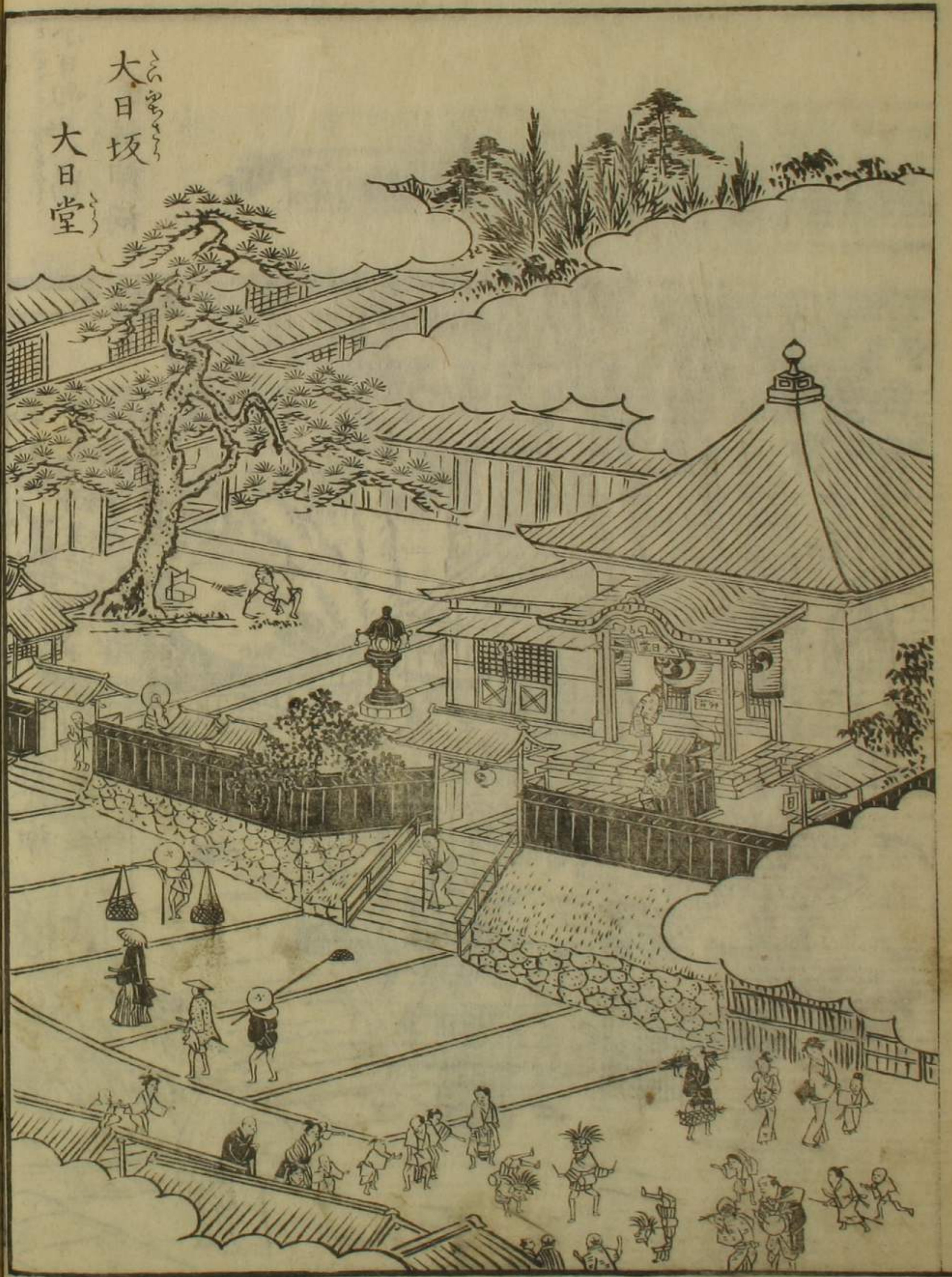
下野入道心佛今の地は遷せし又文明年間太田道灌當

寺を重修

叔悦禪師を住持しむ梅花無尽蔵傳長

ハ道灌の伯父故不實朝公及び道灌の靈牌あり不肖像等を置

徳門の額ハ慧日山と書せハ黄檗即非の筆あり白石先生云く



大日坂
大日堂

文明十七年乙巳東遊の詩の注に芳林院は其の李太白の墨蹟を看る同く
其下芳林院今金剛寺と号しあり

按北条家の領帳に島津孫四郎北品川小石川及び金曾木内法林院
金剛寺の地を領せしを記す法林院は又小田原実記に
大永四年正月十三日北条氏綱上杉輝理太夫朝興とたり勝江戸の城に
うつる茶下は其頃當所芳林院の孤舟和尚來りて萬里居士の江亭記を
捧るとまに孤舟和尚後ハ金剛院に住せしと記せりこも因て考るれば
金剛寺と法林院ハ別なるべし

當寺往古ハ境内廣く寺院巍々として首座主閣侍者沙弥喝
食維那納所行者火番ありて祈禱上堂參禪の式勤め怠
らむとて堂塔も壯麗なりとあり

道祖神祠 同上水堀の端金剛寺より二町を西みあり明德
年間の勸請ありとて別當竜門寺に當社勸請の碑と称
せらるるものあり

氷川明神祠 同西の方二丁餘を隔て是も上水堀の端慈照山
日輪寺とて禪林もあり祭神ハ當國一宮も同一勸請の始久
しうとありて中古太田道灌の再興ありて小日向の鎮守

なり祭礼ハ五九月の十七日あり

當社元龜の年号あり
庚申侍供養の古碑あり

大日堂 同西の方大日坂あり天台宗なり覺王山妙足院と

号に相傳ふ本寺大日如来ハ慈覺大師唐より携す所の靈像

なり往古ハ叡山の中安置ありしを元龜年間織田信長念門

を襲つて項堂宇悉く兵火ハ罹りて灰燼とあるされと此本

尊ハ火焰を遁れ出近江國兵主明神の社頭深林の中に

移りしゆに後夜々瑞光を放ちしより藤原氏某感

得し其家より移しまのせ且暮供養せしより怠りな

然し此人嗣子ありて憂へし此より祈求し竟一女子を

假く長きふ及んで紀伊相頼宣卿に仕へたり後落飾して

法善尼と号し此尼靈夢を感するの後當寺を創きあに

安置し

大洗堰 目白の涯下あり兼應年間

嚴命より當國

多磨郡年禮邑井頭の池水を江戶大城の下に通せ

む其頃此地小堰を築せしれ上水の餘水を分らし天明

六年丙午の洪水堰崩れしより於て再堅固に築せ

られ古より壹尺たり其高さを減せ故小水嵩時其上を

越え流れ流るる患なり

龍隱庵 同所上水堀の端あり昔ハ真言宗なり安樂寺と

号く故あり元祿十年丁丑黃檗宗に改め洞雲寺の持と

なり洞雲寺ハ清羽町ハ丁平石和尚住持を奉るハ正觀世音慈覺

大師の彫造とのみ庵の前ハ上水の流れ横より南ハ早稲田の

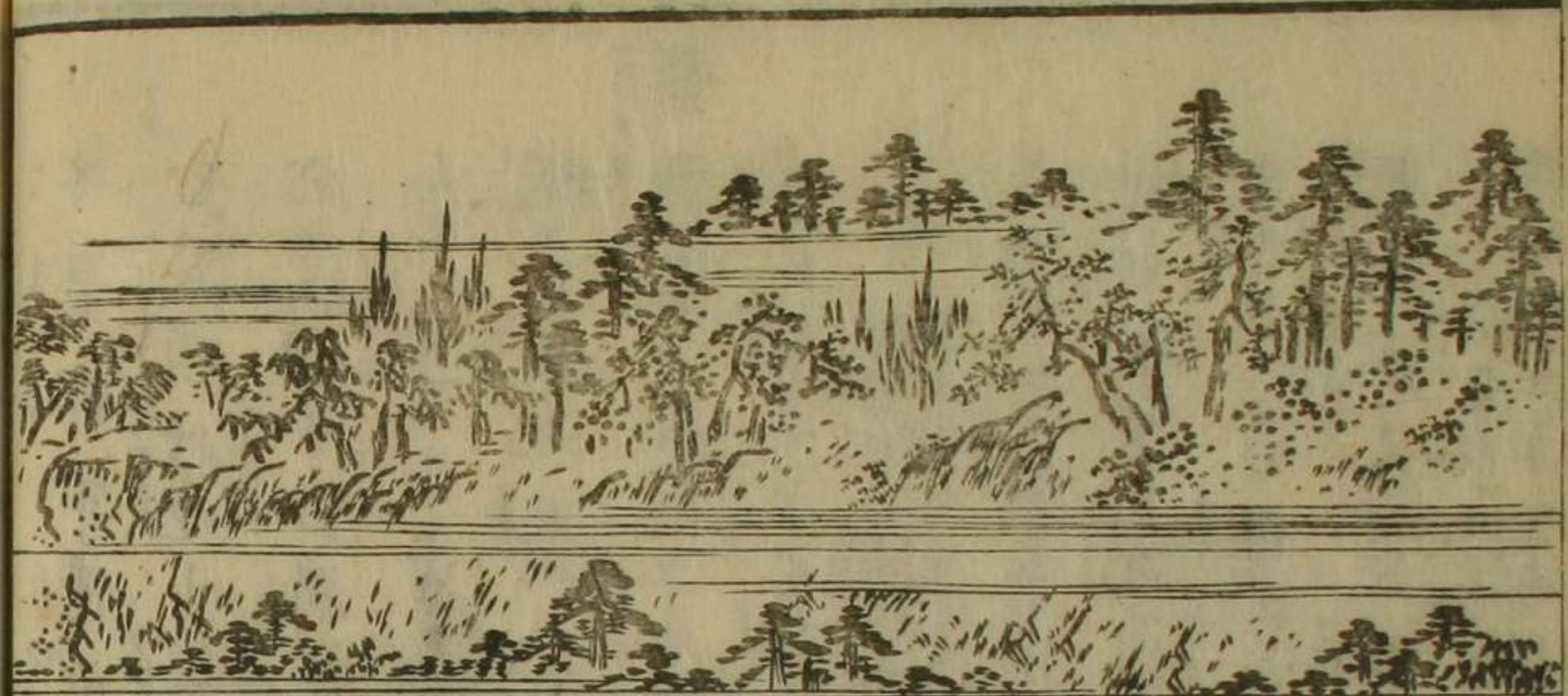
耕田を望み西ハ芙蓉の白峯を顧み東ハ堰口より水音

冷々として禪心を澄しめ後ハ目白の臺聳へり月の夕雪に

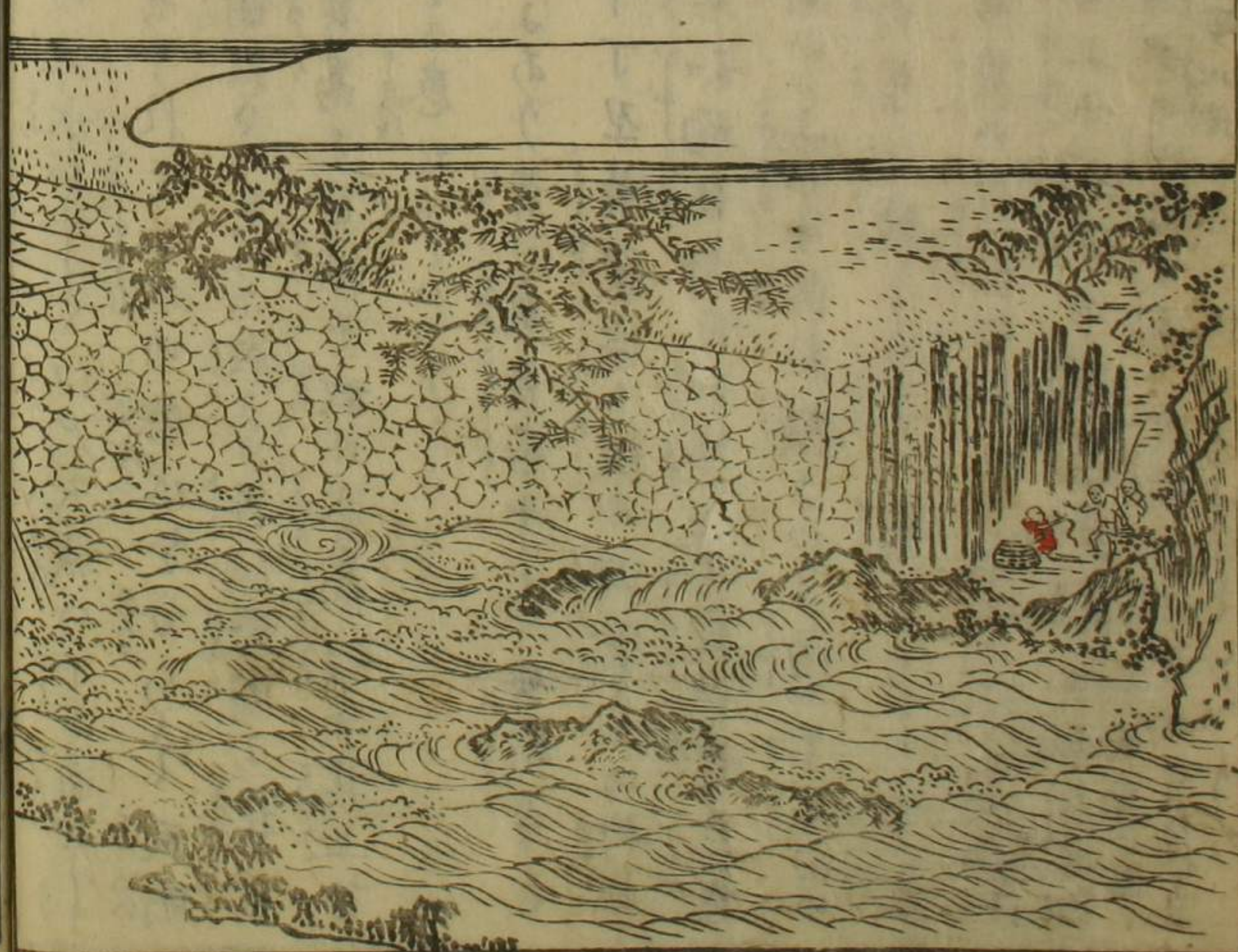
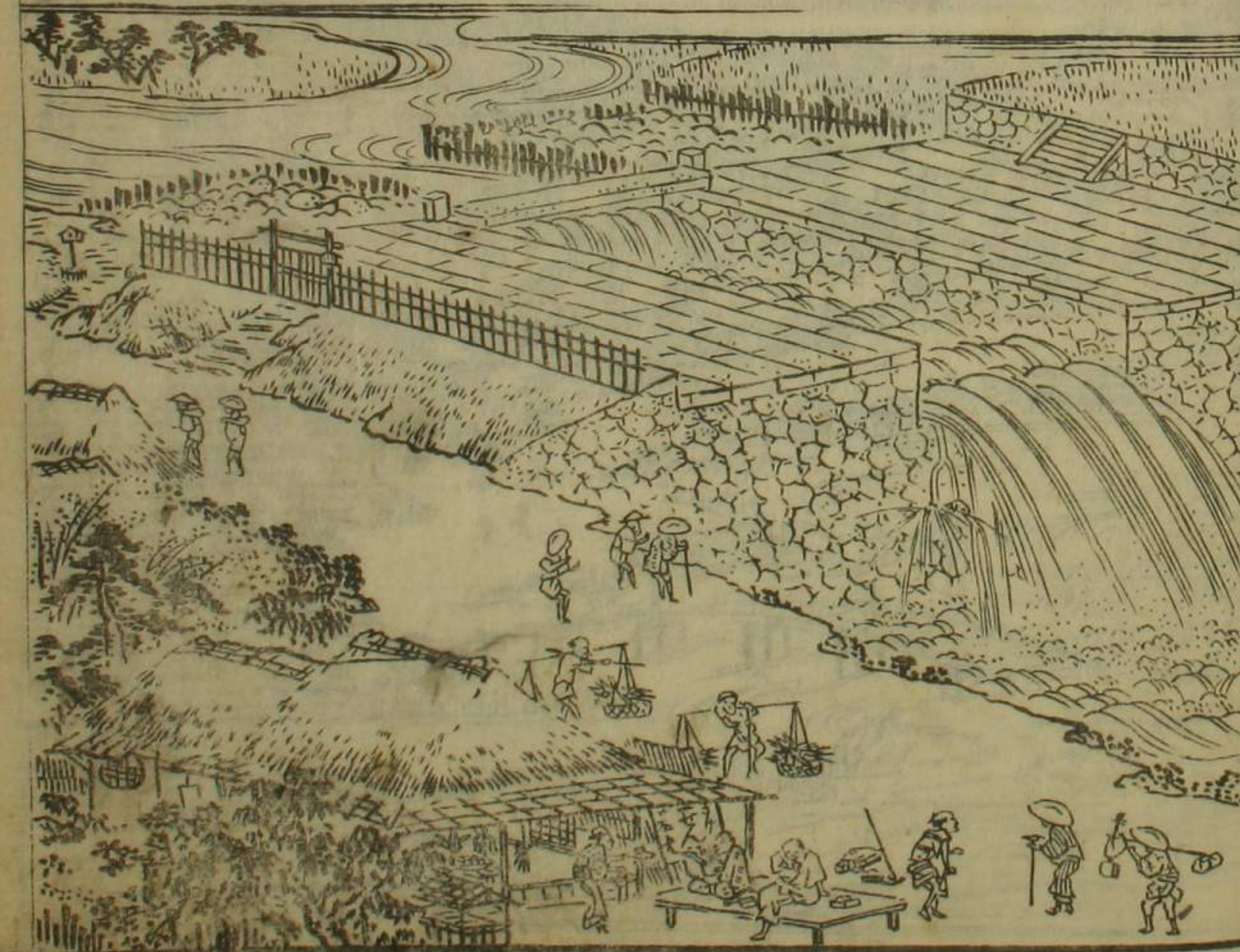
朝の風光も又休まり昔上水開発の頃芭蕉翁芭蕉翁通称
樹尾甚七郎と

ソハ藤堂家の土より此上水堀割の時藤堂家へ普請の命せられ

甚七郎此を司し



堰洗大界下白目





芭蕉庵 えせうあん
 五月雨塚 さきだれづか
 駒留橋 こまどまりし
 八幡宮 やまはたみや
 水神宮 すいじんみや

水神宮

芭蕉庵

駒留橋

五月雨塚

八幡宮

此地小遊のこゝあり後世其旧跡を失ひんを歎き白兔
園宗瑞及び馬光なるに俳師此地の光景江州瀬田に
義仲寺の髣髴を五月に隱しぬものよ
の傍とて翁の短冊を塚に築き五月雨塚と号し
水神社 同所並に龍隱庵別當より上水の守護神を祀え
る北辰妙見大菩薩を安置を祭神八咫象女あり祭礼を

五月十五日あり

八幡宮 同社地あり往古よりの鎮座との下の宮と稱し椿山

八幡とも稱せり 昔八幡多りり 八月十五上の宮と隔年小修り云祭礼毎歳

駒留橋 竜隱庵の前上水の流小架を此水流ハ神田此上水

なれと玉川の分水の落合ゆき山吹の里小傍り流る故小
駒とあり程あり山吹の流る小井の川とあり古詠
の意をとり号けらると又里諺小右大将頼朝卿此地小陣せ

られ頃雪の朝此川傳ひを駒小打乗り眺望ありと奥

尽く此橋の辺より帰るあり駒留橋と号くとも詳

なす 同所幸神の社記駒留橋のりあり

拾徳軒北村季吟翁別荘旧地 同所目白の臺松平大炊侯の庭中

ありとら山と稱するもの今埋もる名を存せり

俳書小増山の井とあり此翁此地に閑居あり著述

あり故小此名ありとて此辺時鳥の名あり外よりと

早くとあり 按別荘の名を 詳儀註とす

往つぬ翁名とらぬ時鳥とて此ありとてありとあり 季吟

幸神祠 同所東の方道を隔て右側あり一小道山の幸神

或ハ駒塚社とも号く祭神猿田彦大神なり庚申の日を以て

縁日とて社司ハ宮城島氏なり相傳へ往昔此所ハ豪氏

道山幸神社



あり 今も此辺を長 金の駒と塚小築篋榎樹を栽りかゝる幸神を
 勸請す 當社の神体ハ昔此麓入江なり一頃其水中あり 古へ此辺鎌倉
 海道なり一故小道山の号ありとそ 中古大荒廢一々神木の榎

の下の徳の叢祠の存せしを項の神主政泰なる者今の如く祠を
 営と建るとの 里諺云延宝の項金の駒の精ありと云く此辺の田畑を
 谷と唱ふ又橋の上は其駒の移方を云く 数度なり追ふ時ハ山谷小隠る其谷を駒

目白不動堂 同所東の方ありと堰口の涯小臨む真言宗中々

東豊山新長谷寺と号 長谷小池坊の本寺不動明王の靈像を

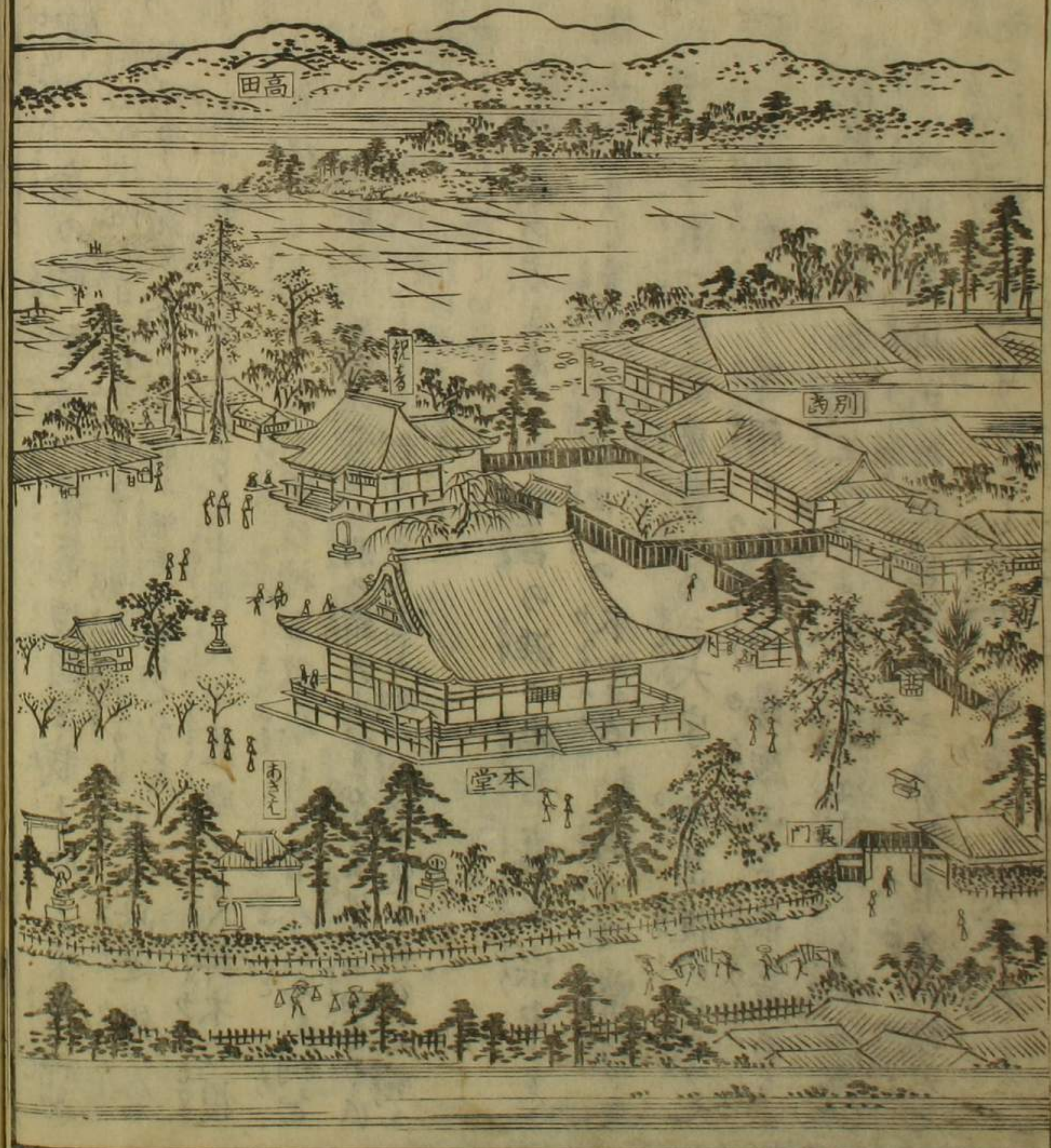
長弘法大師の作徳門の額東豊山の三大字ハ南岳悦山の筆に
 縁起云弘法大師唐より帰朝の後羽州湯殿山に叅篋あり

一時大日如来忽然と不動明王の姿に變現一滝の下に現れぬひ
 大師小告て云く此地ハ諸佛内證秘密の浄土あるハ有為の穢火を
 故小凡夫登山せしりかゝ一今汝ハ無漏の上火をあくる

早秋遊豊山
長谷寺偶然
成詠
偶乘秋景入山林
盡日曾無俗吏侵
巖下清流堪濯熱
况傾河朔酒杯深
春臺



即白
不動堂
境内眺望
勝れり
雪景尤



乃と宣ひ持しあふ所の利劍をとりて左の右臂を切りハ
靈火盛ふ燃ゆく佛身も充てり依り大師面前出現の像二
軀を摸刻し一躰ハ同國荒澤に安置し一躰ハ大師自ら獲
持なりあふ野州足利に住せし沙門某是を感得し
奉持せし一年靈感あふを以て此地の住人松村氏某ふを
かり竟し一字を闢し此年を移し安置なり
某古松村氏其愛を感し不動の野州より此地にうつり
某途中嵐のぬかすに支那當山の榎の枝ふかりありし
縁の地を推知し地主渡辺石見守某へ此地を乞ふ石見守
藩邸の地を寄附ありしとあり今の境内是なり袈裟掛榎と
稱せり

當寺ハ元和四年和州長谷小池坊秀筆僧正中興ありし頃
大將軍 台徳公の嚴命より堂塔坊舎修建立ありし和州
長谷寺の本まると同本同作の十一面觀世音の像をうつし
長谷寺と改む 大將軍 大猷公 目白の号を賜ひ元禄の始ハ

桂昌一位尼公御掃依浅く諸堂修理を加へし丈余此
地藏尊等を安置なるといわれし此地麓中を堰口の流を帯ひ
水流深くと日夜絶せ早稲田の村落高田の森林を望み
風光の地なり境内賃食亭多く何れも涯に臨り

関口八幡宮 堰口目白坂の半服左側あり神躰ハ佛工春日の作
なりとのみ當社を上宮と稱し下の宮ハ先々 関口水道町鎮守ハ
祭礼ハ隔年八月十五日に修初を當社も下の宮も同く
洞雲寺奉祀し

大塚 小石川原町の辺より護國寺の辺迄の惣名なり 或人云古ハ
西小分つ 甚廣莫の地なりしとあり 難声 或人云今の水戸大塚の
窟の辺を東大塚と稱せしとあり 藩邸古の奥州街道あり榎木の
大樹ありハ平頃の一里塚あり 則大塚と云ハ是なりと 本傳寺日蓮大士
塚起し云く又南向亭云く 安藤對馬侯の東の方森川氏の構の中
に一堆の塚ありと云

目白坂
関口八幡宮



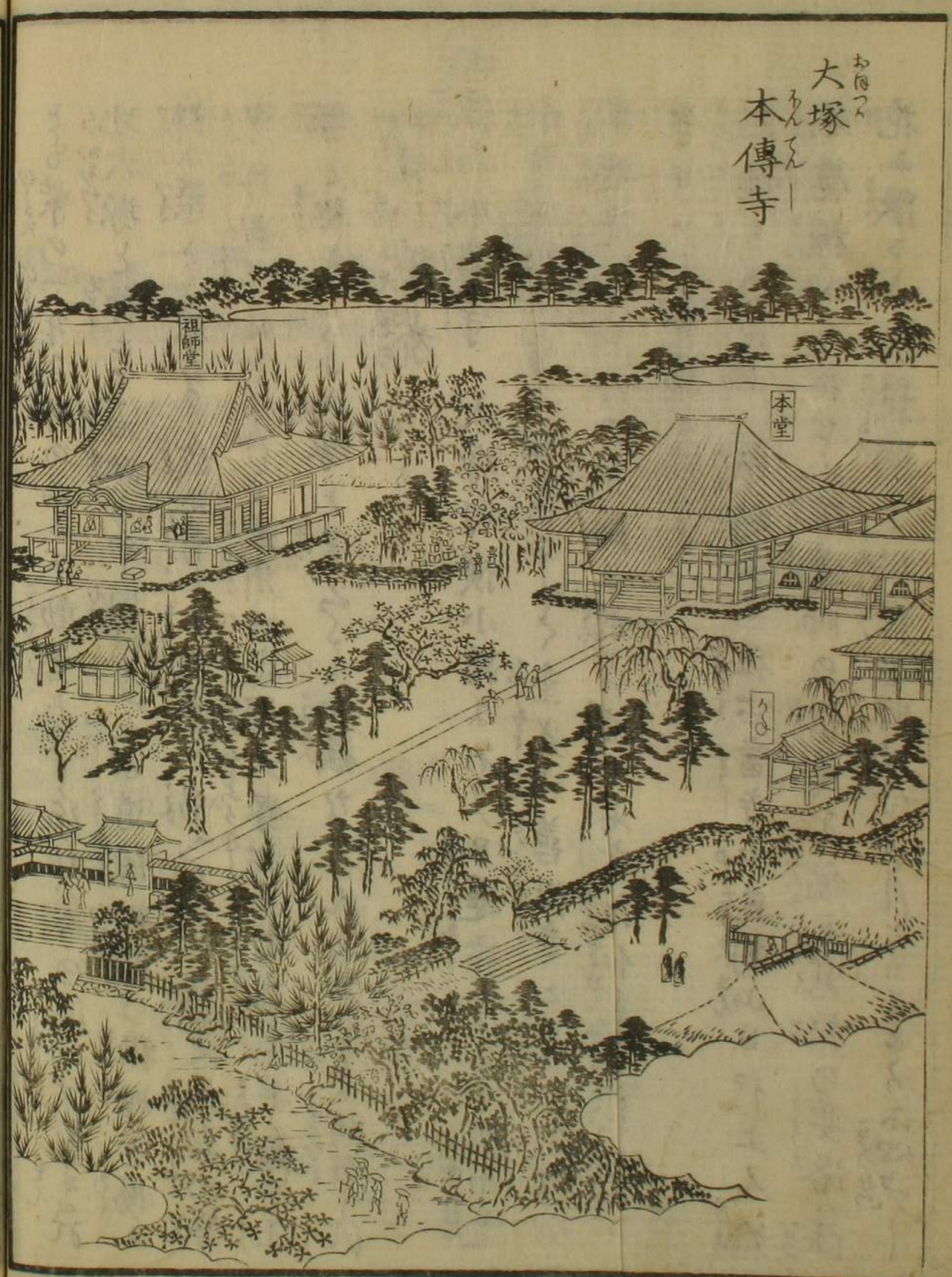
とも紫の一かゝ塚の上は不動堂ありと云れハ今の波切不動を此
地大塚と称する旧跡也相傳ハ太田道灌相國の狼煙を揚る
料小築く塚なり故小昔ハ太田塚と唱へると或ハ又鎌倉將軍
守邦親王乱とせしけ武州比企郡大塚村小逝去也其廟を王
塚と稱せり小大塚と号す此類なりんと云々詳あり

大法山本傳寺

大塚町横小路あり日蓮宗中々駿州蓮

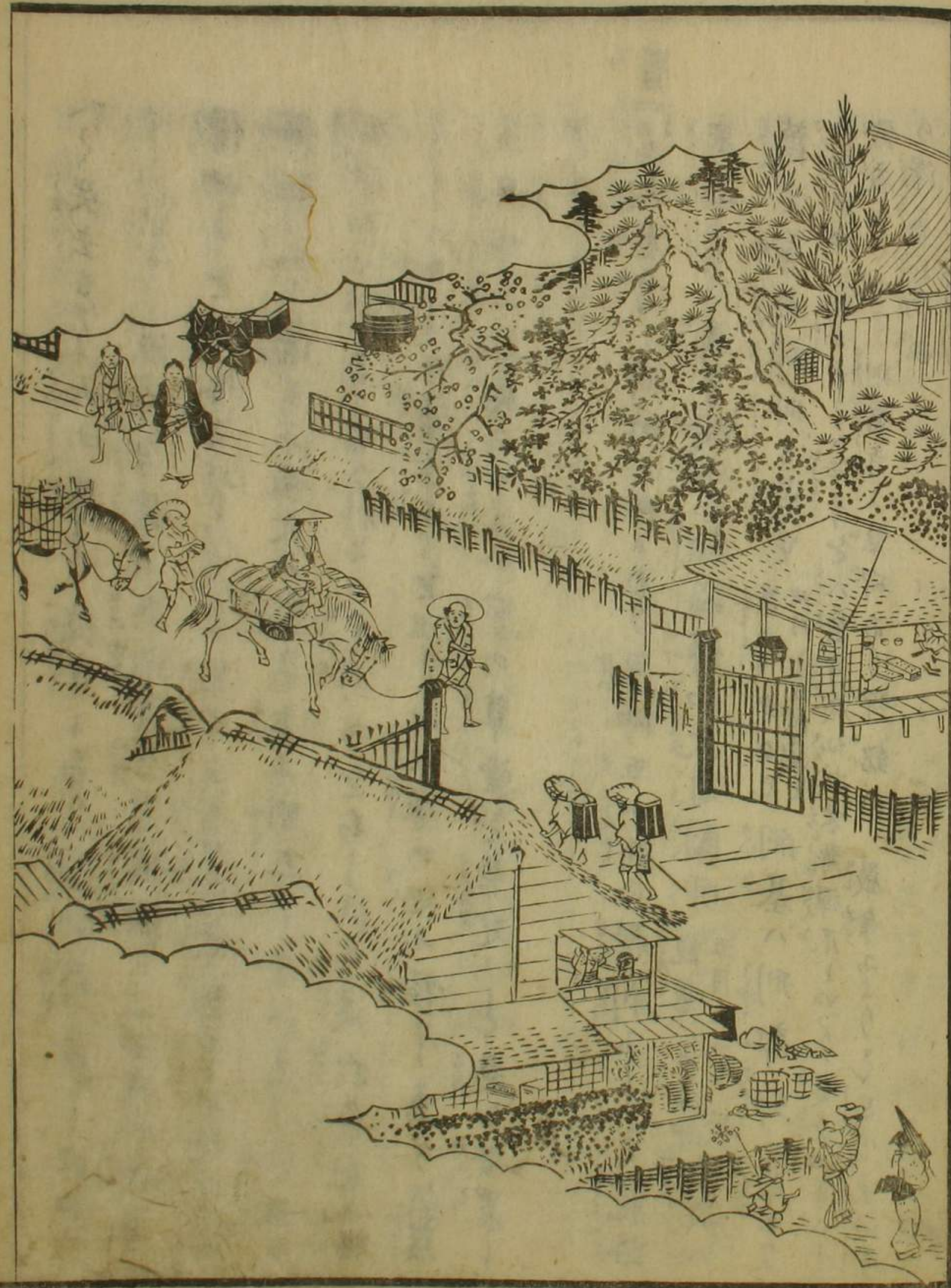
永寺は屬昔ハ禅宗中々重光山善性寺と号く元和年
間瑞應禪師今の宗風を授け自の名を法仙院日行と改め
寺号をも本傳寺とす

經讀日蓮大士 縁起云く往古當寺中興開山日行上人始
瑞應禪師と稱せり頃蓮師の宗義を鑑之覺悟の要路ハ法
花小限るを發明し宗風を授せんとせりともさそふ心決し



かこし依元和三年丁巳四月三七日の間不動明王の宝前ふ
おのゝ法花三昧の行を修し同廿五日結願の夜の夢よ
明王姿を現し師小告く云く汝前生ハ法花の行者たりし
うも臨終の期は至し唯空永滅の念を起ししりし謗執ふ
因き空無の見小墮とて今宿世の妙種ありしりし本
心よ歸り速に権宗を捨てて実教に入し我も久しく
妙法の醍醐味をあらんせんを死びしりし正今一乗の法
蓮を開くとまの時に至り社壇の良ふ當る基を開く
るし其地必妙経讀誦の靈音ありし不測の像を感得す
へしと云く師終小此靈夢よ依る心を決し同廿八日日遠上人ふ
謁し受戒し号を日行と改む日遠上人ハ駿州貞松山又靈宗ハ
心性院の寺主なり
任せ同年六月一字を開くとし其地をトせし同十三日の
夜土中忽然とて妙経讀誦の靈音あり翌を待て地を

穿つる数尺果し此靈像を得しりし不動明王と稱せり此の
条下は一字の香堂を營し是を安置せしと云云此靈像何人ハ作
す頃日行上人一百日の間法花懺法を修しし靈像師の夢に告て曰く汝宿
縁むれしりし吾像ハ値遇せ我ひし後念あり下後へ趣き頃此不動の堂
前一人の信士あり明王の告ありし我を奉養し教化を受て師檀の
約をなせり別まふ臨むの時堂前の松樹をとりて我像と彫造し彼信士は
摠とせり汝が感得せしるの像を則これありと示しありしりし竟ハ大士の手刻
波切不動尊 同所大塚町の通る道より右より別當八日蓮宗通
玄院と号す
縁起云此本宮ハ始勢州一志郡小幡村大乘寺に安置あり然も
建長五年の春日蓮上人伊勢路を過るる霖雨あけ宮川の
水まうらうしりし渡るる時一老翁来りて云く
師川を渡らんといはれ水を切の術ありとて則師を誘
引しきたるを水上を渡ししりし
と翁の住所を尋るる小幡の山寺に住むるとの事



へく失去より大士夫より彼寺より翁を尋ねりしに知人
より依り依り寺僧より其故を告ぐ彼西を立出ると後寺
僧此寺を不審とせりひひ其寺を安置の不動を拜せり
佛幹水に濡るも依大に驚き直小明王を負ひたり宗祖の
跡を尋ねひまゝせられとも所方とありて後於東國に趣
こゝに在るの靈示ありと以て此大塚の辺に移りて農
民其塚上松樹の下に一字の草堂を營建し是を安置し

普門山大慈寺 同所上町あり京師五山派の禪刹なり花洛

東福寺は属を開山ハ勅謚佛知大通國師 觀應二年辛卯中興ハ

萬古昔大禪師と号す 兼應二年癸巳 刑部卿の局あり

天壽院殿の侍女中法号を大慈寺殿仙林榮壽禪尼とて慶長四年八十

餘歳に逝す則當寺に墓碑あり碑銘ハ 嚴命より品川東海寺

の澤庵和尚撰

本尊葵正觀世音菩薩 座像中長 南天竺毘首竭磨又ハ唐の

檀文會檀首勲の作なりとの

鎮守日吉豊國両社 江戸一社の神あり

造酒地藏も 寺境見耕庵の本も中々天竺佛より 寺記云此靈

原北条家の項品川の海底より出現あり 御當家より淨信教厚く當寺

大藏管職兩住寺の項葵正觀世音火防守護の爲見耕庵を淨建ありてこふ

後より其項或夜佛告曰く 此寺を賜つせられり種々威靈の有り

正法千歳在佛在世像法千歳遊龍宮海

未法中救世衆生今世後世令離苦惱

ゆゑ又造酒の二字を淨願ふならんれ當寺に淨信納ありとあり今も

祈願ありの必酒と捧げを

縁起云葵正觀世音菩薩ハ昔時行教律師天竺より携来し

靈像なり 欽明天皇己未移りて右大將賴朝卿及び足利

家より傳り夫より後代々の將軍家崇信厚くあり中古

日向國志布施の龍興山大慈寺あり其後又花洛東福寺の

支院三好山長慶寺のなまなりと

東照大神君沙崇敬まりく竟小江戸の大城へ遷座なりあひ

毎月十八日天下泰平此沙祈禱とく観音懺法等を修せしめ

らと殊更葵の一字をも附しあひ天壽院殿も沙信心浅く

さりしあより慶安二年當寺を創しあひ刑部卿の局を開

基とあらされ此中を當寺に移しあひあり

と引く創基なりあより山号と下され又天壽院殿沙菩提のる沙祠堂料を

鳩巢室先生之墓 同所坂下町の北の裏少し北此田の上よりあり傍小

息男忠三郎洪謨の墓もあり

先生姓室氏諱直清字ハ師禮鳩巢と号し通稱ハ新助舟と命し静儉
とつ其先熊谷直実の裔中備中國英賀郡小出考諱ハ玄撰草庵と号し
此ハ平野氏萬治元年戊戌江戸谷中邑小産す異質あり睿誠人小絶を如藪小谷
宦業と木下順庵先生の門小受け京師小客たり討論の暇大学新疏と著し以て
章句の蘊を發し徳元年東墓の徴小應し來つて江府小就く往復贈答の什積て
卷装を成を應對流し其風海表小播し是を無窮小宣し不足たり
邦國治平の盛を聲し其風海表小播し是を無窮小宣し不足たり
有徳公統を繼ぐ徳持小先生を撰り管中侍講と授く此職の設蓋此先生小

筑波山護持院 音羽町の北あり真言宗あり和州長谷の

一派なり寺領千有五百石を附せし

本堂本尊不動明王 作不詳往古ハ本尊小

歡喜天 蟹池 庭前の池あり當寺建立あり此地の名をせりくも

権現山 數置岳あり東照大神君正真の沙像と

當寺開祖權僧正光譽ハ和州初瀬寺の西藏院に住職あり

に沙帰依浅く江府小召れ常州筑波山の宿寺を下し

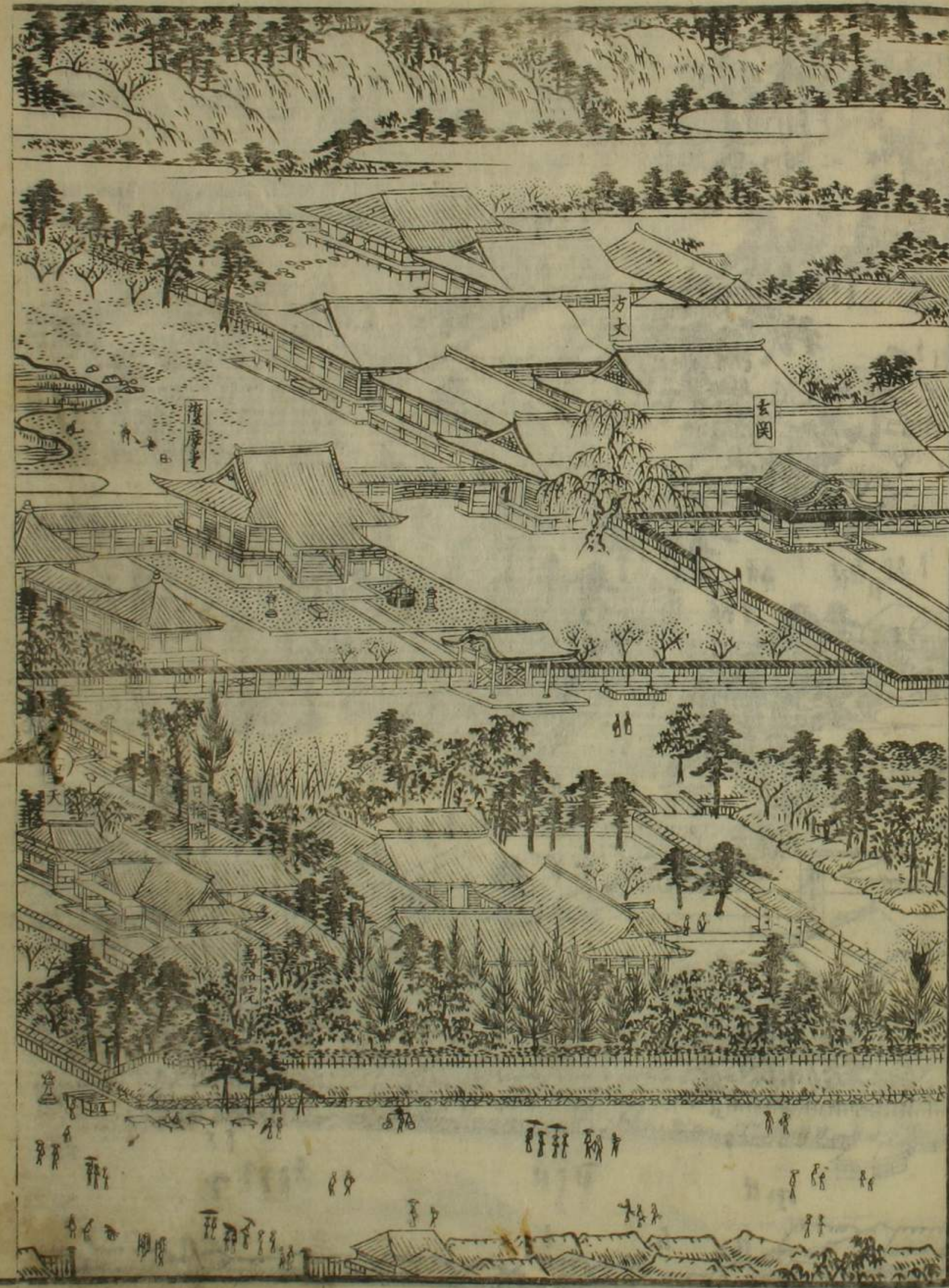
其始知足院省俊ハ下野國筑波山中善寺を兼

と号す

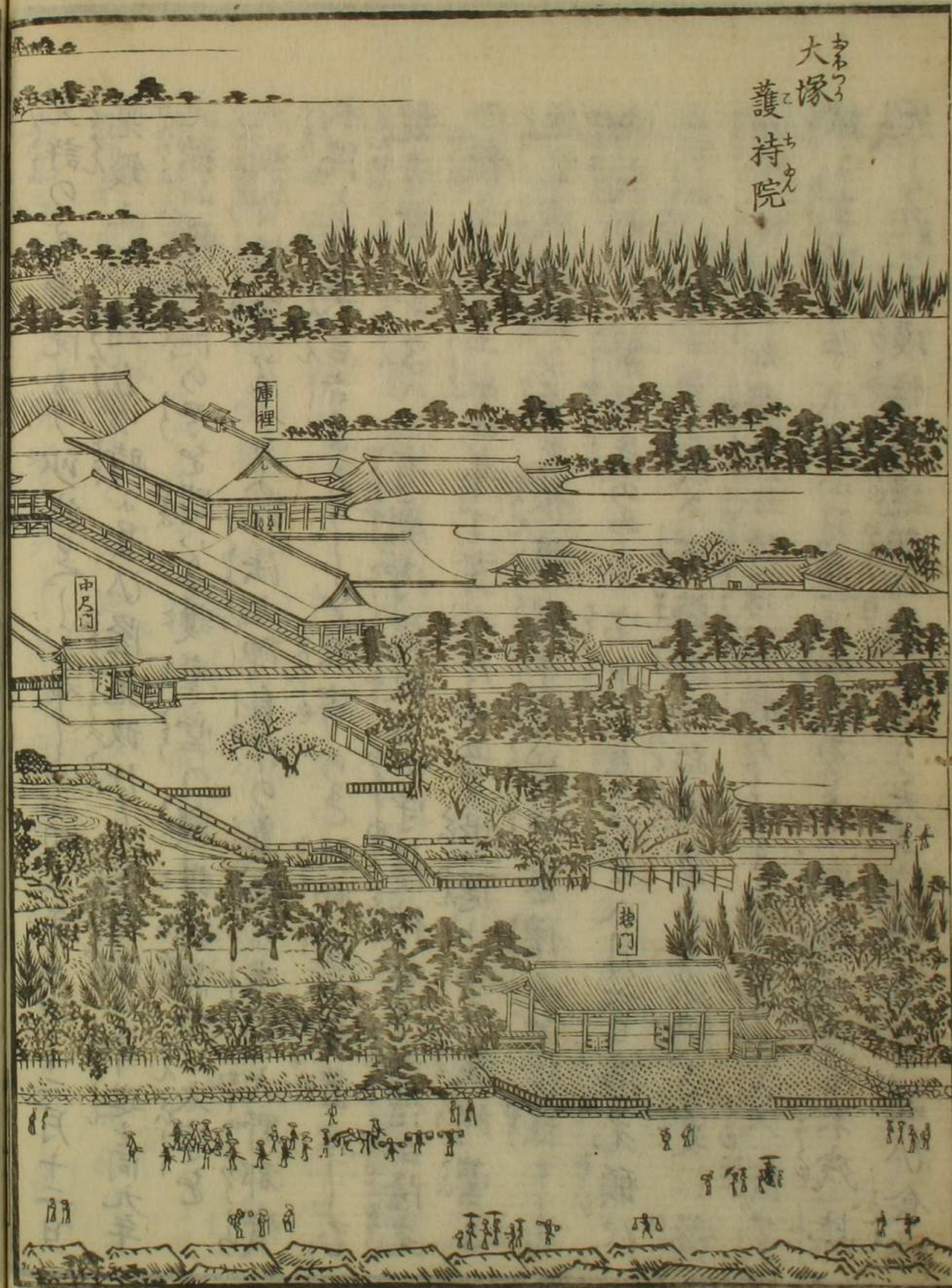
始り嘗て 鈞旨を奉し五倫五常の名義を疏記し國字を以て書成り
禮を嚴む又六論行義大意を述官命し是を鑄り天下に布し是より先論孟
中庸及び易経廣義と著し考訂し及ぶ先災小罹り終つて愈む疾を陳
感し重なる稿を屬しあつて侵蝕日甚しく頤養を以てし
病間駿臺雜話と著し旨あり是を徴し因りて齋を又大極因述と著し
編と成瀧西千載の秘と弘單し後學を來せし侯此乃先生の絶なり享保
十九年甲寅八月十二日駿臺の賜弟小卒し年七十八州の豊島郡大塚里に葬り
以上鳩巢文集前編伊東貞薰林の
叙りかたり其要を摘り記す

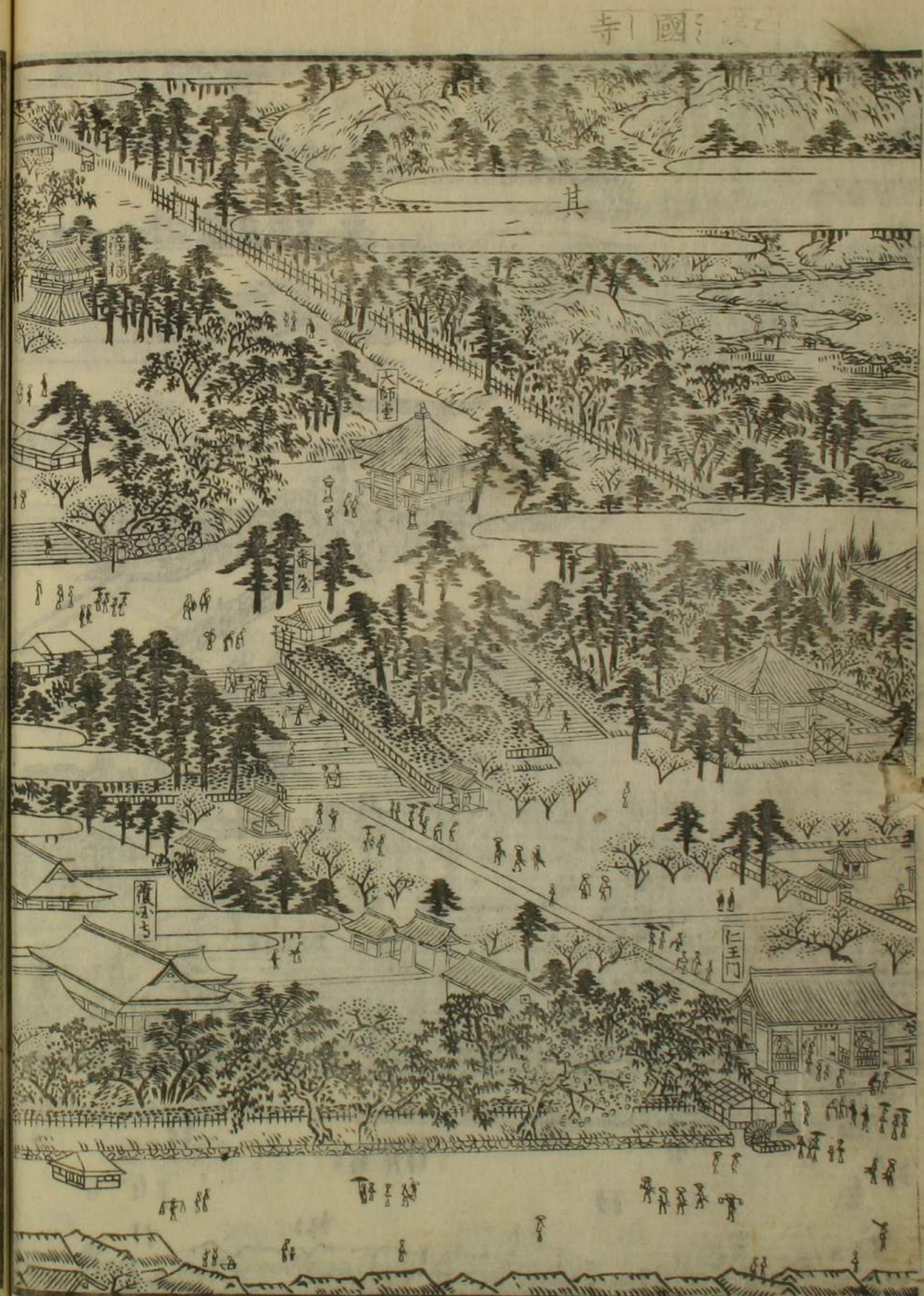
帯一真言新義四箇寺の支配り慶長の始 大神君の
嚴命を蒙り江城の護持所と定まされ同庚戌の年江戸
銀町小寺院をあり其地未考依光誓知足院を遷し宮建を同
癸亥年大坂御陣の頃も光誓命を受く御陣中お於る祈
禱を其後寛永三年丙寅 大猷公諸伽藍御建立あり
延宝二甲寅年 有廟御再修あり天和五年壬戌十二月
火災不罹るより貞享元年甲子湯島切通お移りあり
根生院の 憲廟御依浅く元禄任元の年神田橋外
地なり 武士屋敷の地お移され松平若狭守仙石越前守お命せられ
護摩堂祖師堂觀音堂徑堂灌頂堂鐘樓堂二天门坊舎お
至迄金銀をとりおめあり隆光を岡山と一権僧正お任せ又
護持堂お建立あり釋迦佛を安せり同四年八月寺領千五
百石を附し院家お列し關東新義惣録とせり色衣

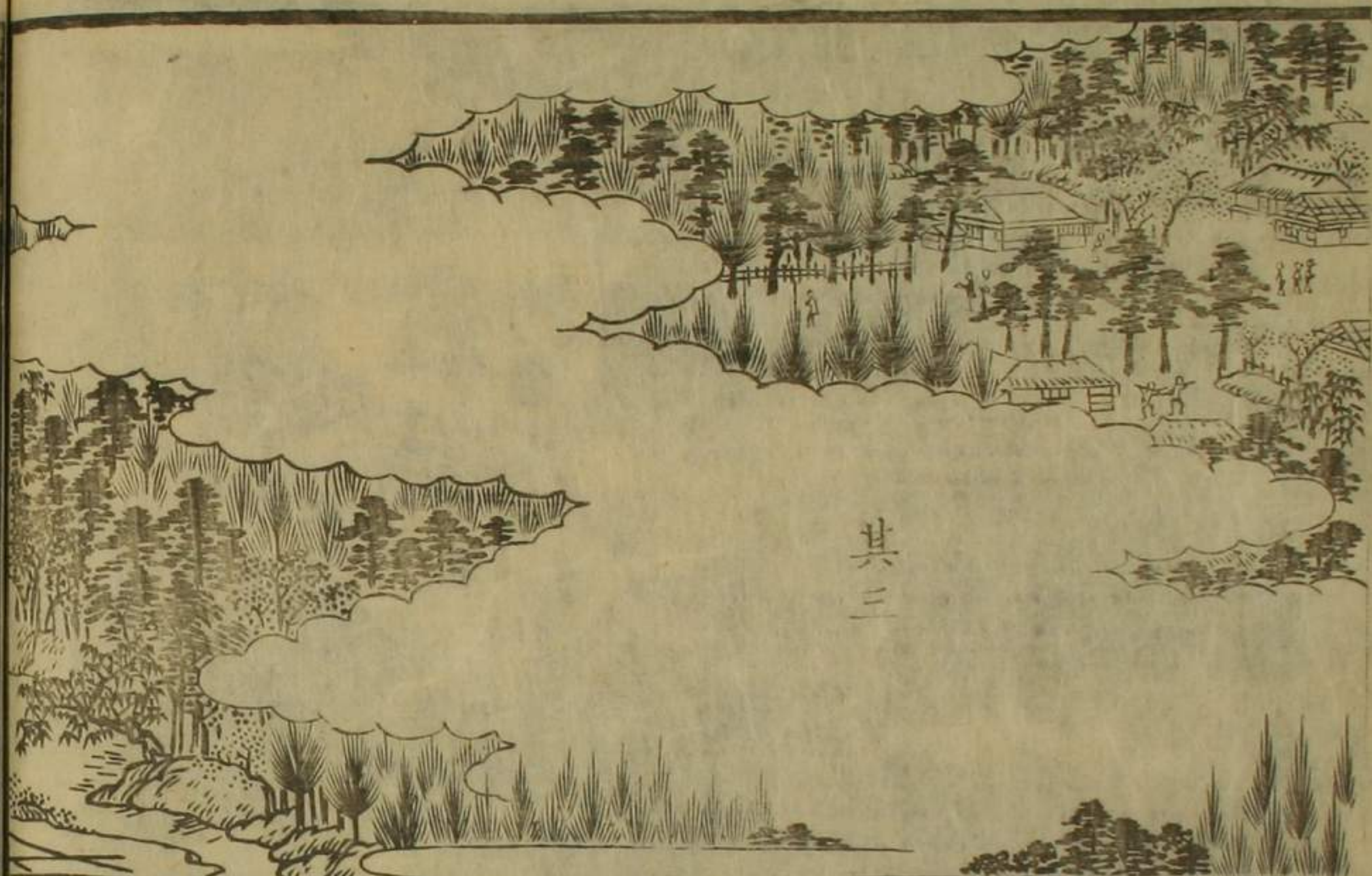
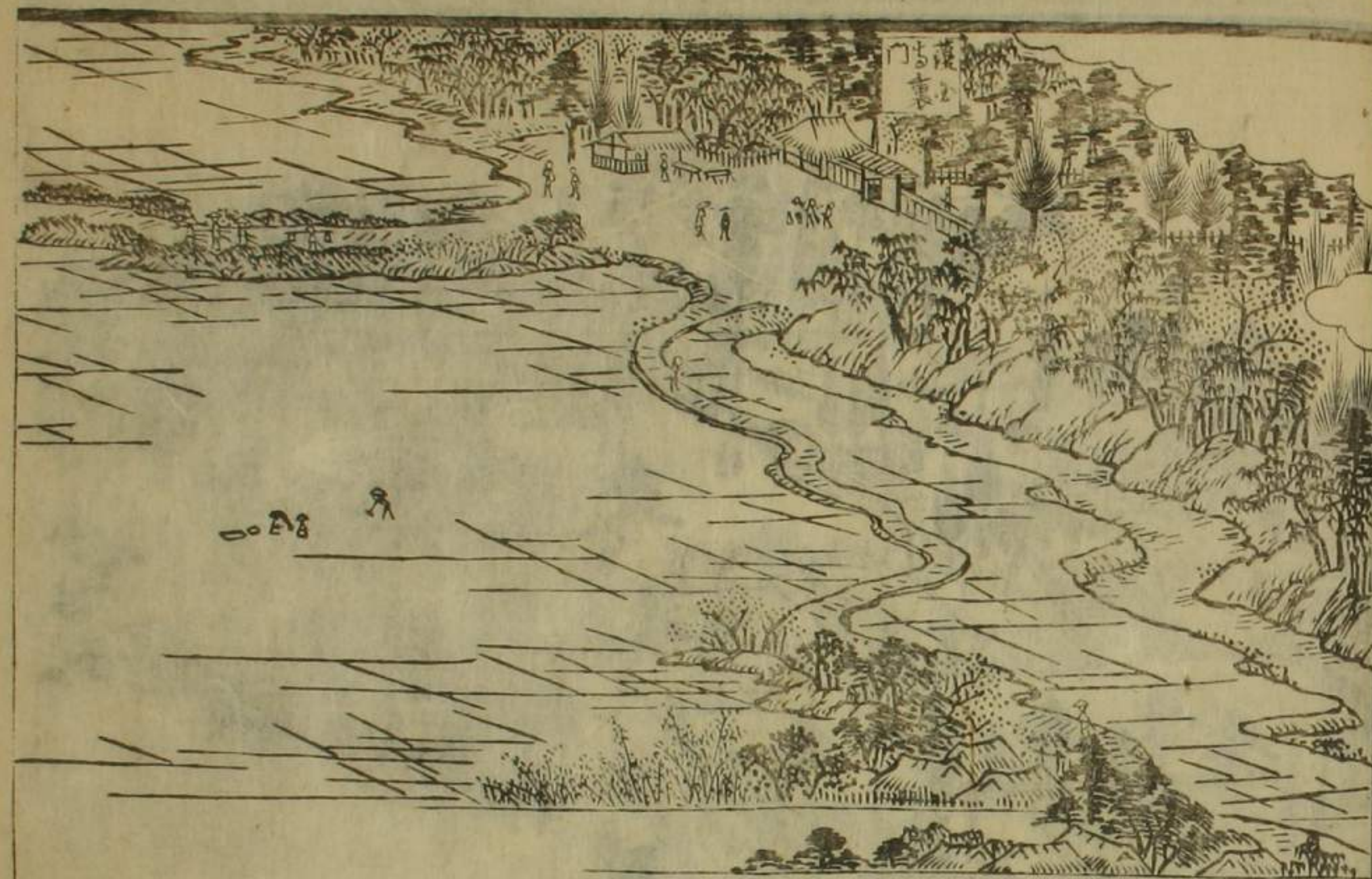
免許のより當院より沙汰と命し同五年壬申十二月十二日
寛綬上人贈官の時及ひ隆光改任し大僧正昇進を同九年
元禄山護持院の号を賜り護摩堂の額護持院の三大字を
大樹自灑筆なり弘法大師自作の真像ハ濃州大野郡實
相院と云真言寺ありと取寄らせ祖師堂お安置せしむ
觀音堂のなきハ 有廟御信敬の由守護佛なり大僧正隆光
の願あり宝永四年丁亥二月廿五日退隱し駿河臺に
遷り成満院と号を依護國寺住持快意僧正を後住とし
御成あり繁昌先の如し宝永六年己丑八月六日隆光願に
あり大和國お移る故お成満院の跡快意あり仍る爰に隱
居す後住ハ知積院小池房住職たり命あり入院す
然し享保二年丁酉正月廿二日火災あり堂塔一字も不残焼
失しこれハ頂住持退隱の願より夫より後寺号及ひ食禄



大塚
護持院

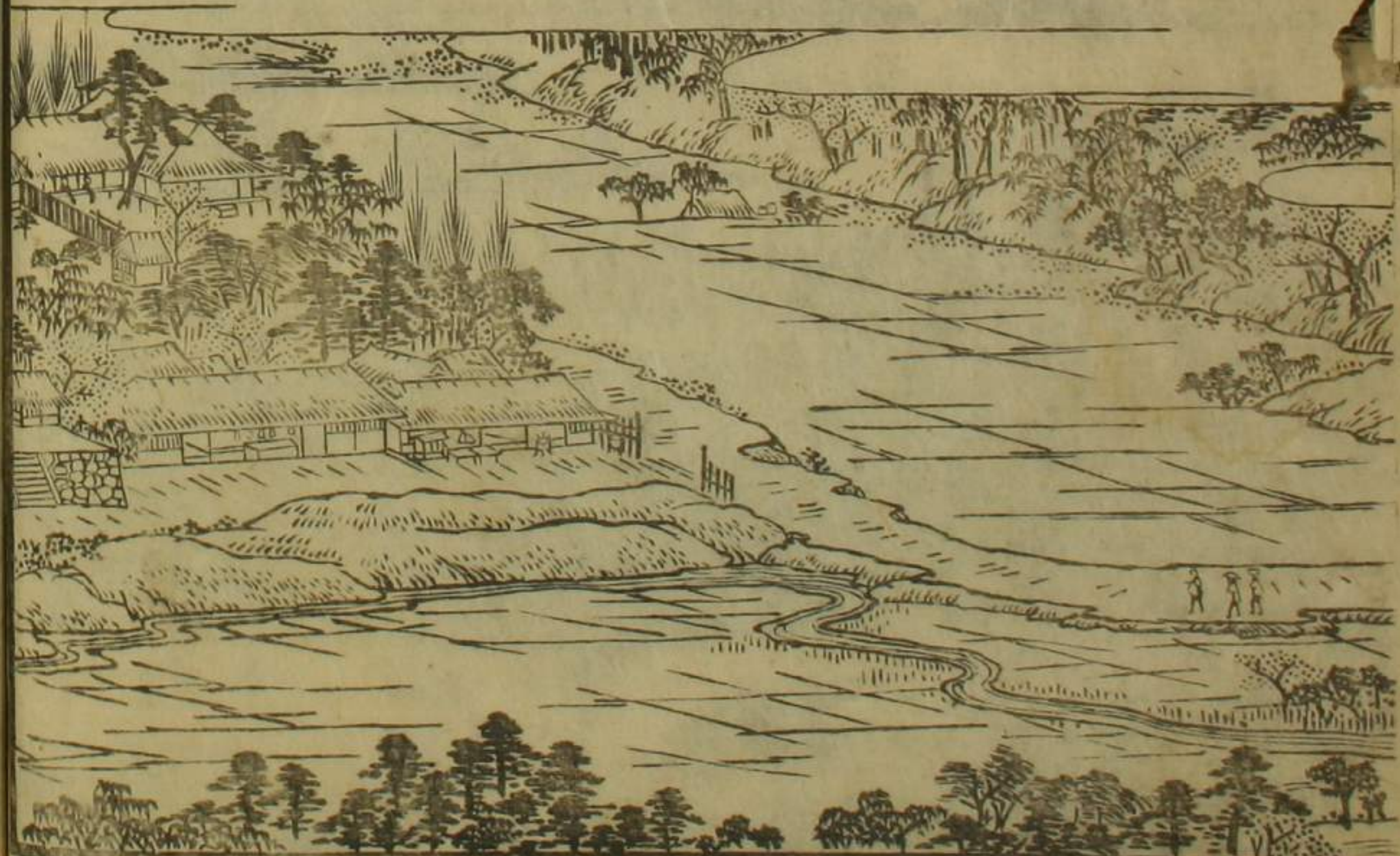






其三

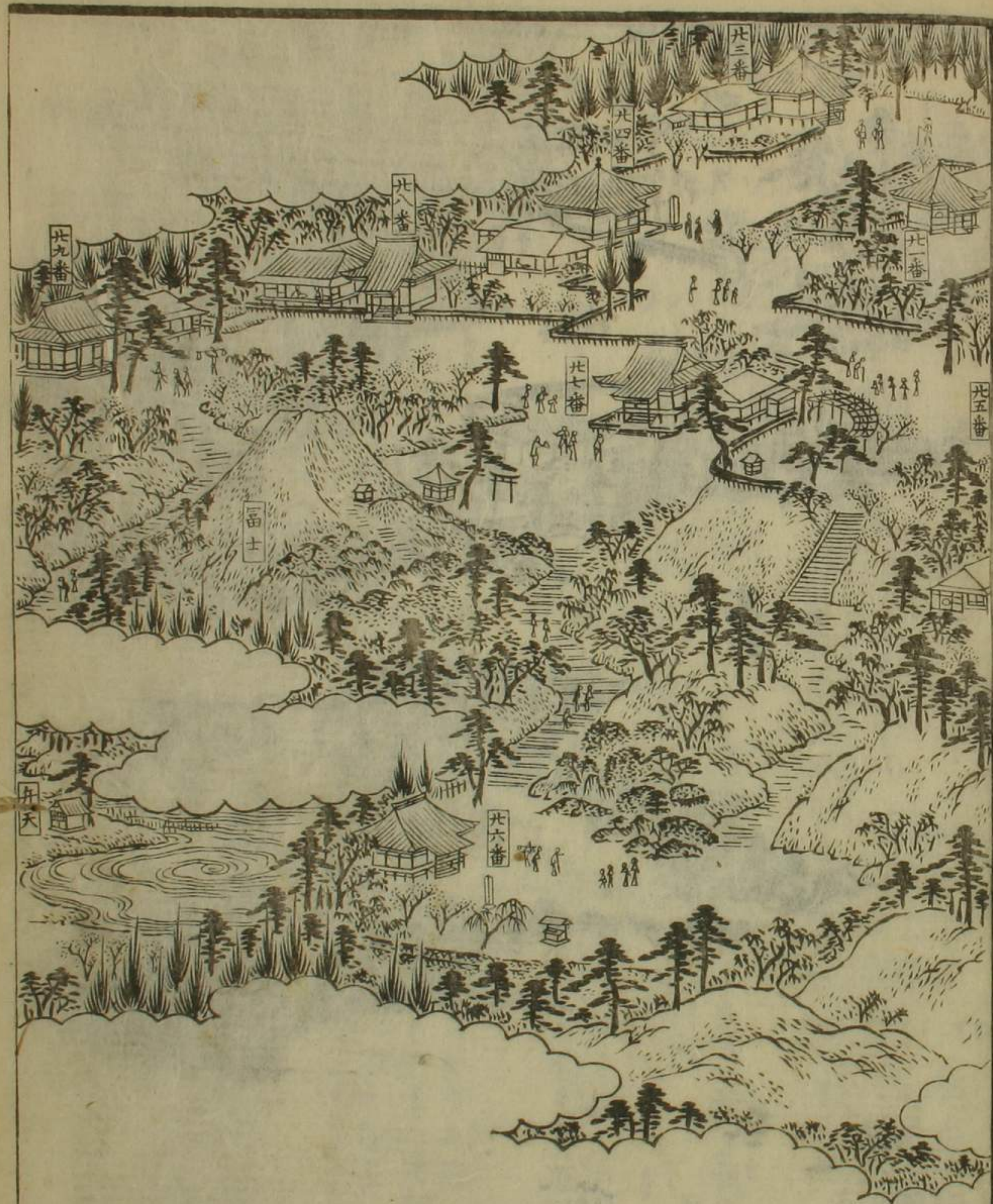
寺淨本



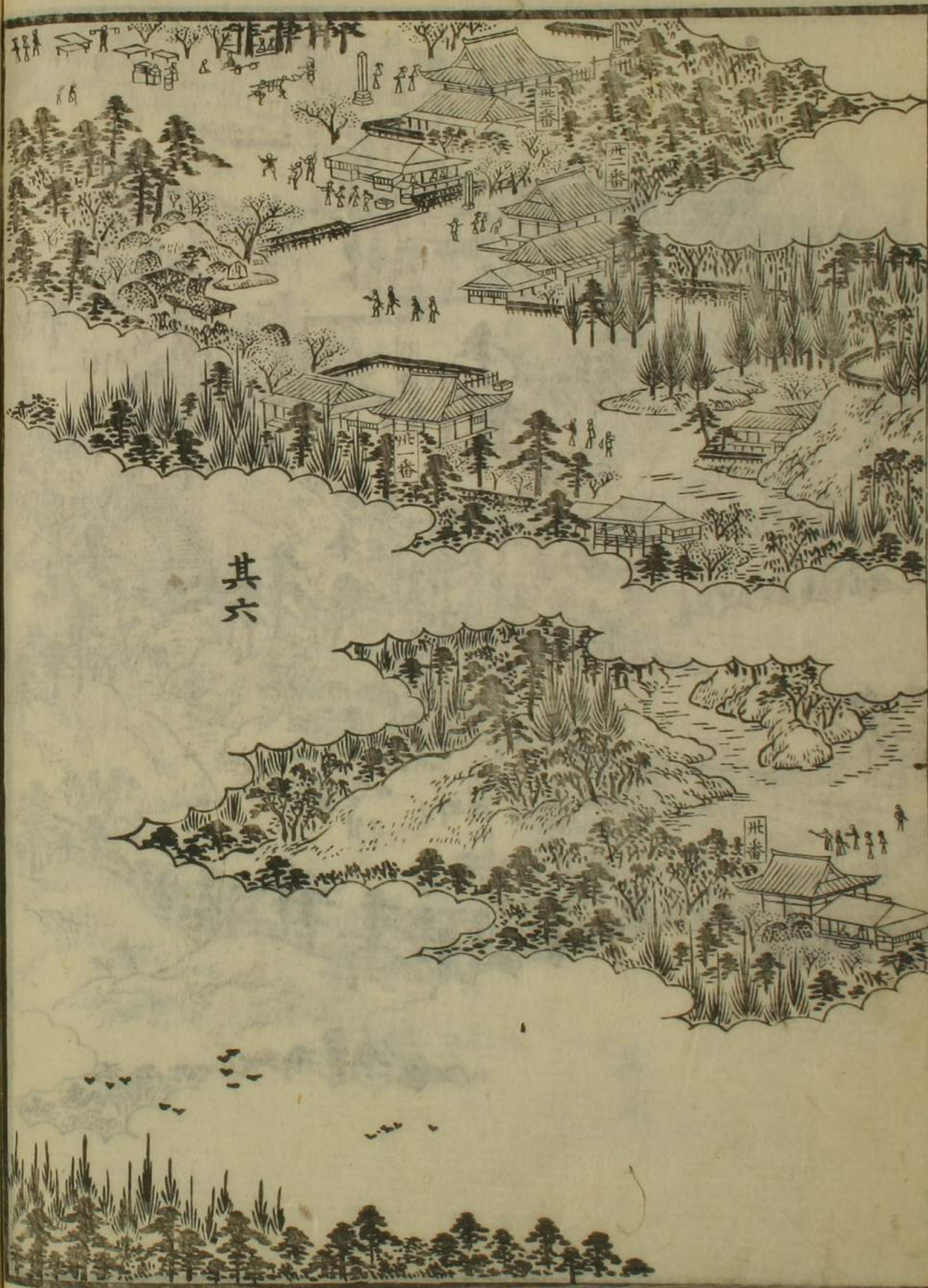


其四

護國寺境内
西國札所寫三十三所觀音の圖



其五



其六

神

護國寺おのひ大塚護國寺の内よ近江城護持の法行
 願所となごりめ筑波山兼帯坊舎日輪院月輪院と云
 山開毎年三月廿日私法大師の法影供修行あり此日諸人小庭中の
 林泉をんんん
 神護山護國寺悉地院と号に音羽町の北よあり新義の真言
 宗あり和州長谷小池坊は属す開山を亮賢僧正と号に公より
 寺領千二百石を附せられ盛大の地なり
 古鹿子云寺領三百石
 大猷公守津本馬腦石觀音
 像開基

本堂本尊如意輪觀世音
 持しをしと黄檗隱元老師の弟子墨庵の朝音前川氏と師弟の縁あり
 音は授与す其後故ありて桂昌一位尼公崇敬あり由事合考よるり本堂
 の柱と振柱ら云々木理振の面は等
 藥師堂
 西國三十三番順禮札所写
 諸人の眼をよるこそ
 歡喜天
 境内寿院安を桂昌一位尼公の信のありて永代不退轉
 天下安金の浴油の法を傳せられ寺産をあり

仁王二天の像ハ古ハ火災ニ残リ今宮五社當所鎮守ト云天照大神宮ハ幡大神春日大明神今宮大明神三部大権現五社ト結ル

音羽町音羽町可振木河ホの鎮守ナリ涅槃像大幅當寺宝物トモ符野

當寺ハ延宝九年二月七日上野國八幡別當大聖護國寺の住持

法印亮賢高田沙菜園の地を以て寺とす依て大聖護國寺と号亮賢初

元年憲廟將軍の宣下蒙る同年五月廿八日都下新

建の大聖護國寺を仁和寺と録院家ト依て寺領三百石

を附し貞享二年十二月廿八日大聖護國寺住持法印賢廣

黄衣を許す後元禄年中桂昌院殿一位尼公の志願

大の梵宇結構作り春時ハ櫻花爛熳江戸密乘最

地勢洛の沙室髮髻武江神寺元禄十丁丑相馬陣

當寺ハ桂昌一位尼公沙遺物を収る今猶侍閑帳の項

諸人ハ拜せ金銀をとり其結構言葉の堂宇なり

星谷の井田地護國寺の西の谷あり其地を星谷と号す往古

此地ハ星祭を修行者あり本浄寺の裏塚の

あり星産と号け其傍ハ一ツの井あり此井早魅

水絶を涌後埋今此橋を星谷橋と号す

大野山本浄寺護國寺の西小篠坂あり日蓮宗甲斐

斐の延嶺屬真珠院日要上人延山頭を以て開

基始谷中ありを宝永三年此地移當寺ハ宗祖上人の像あり

七面大明神 神形を身延雛形の多像なり 往古本山貫首日悦上人紫衣
是と謝せんうる宝蔵に収る所の七面を大野氏に授け今ト部朝臣吉田兼連
書する所の額あり九月十八日祭祀あり前夜より参詣あり
大黒天 日蓮上人安房の清澄に在り 項虚空蔵の参詣あり 智恵を以て讀經教
及ひ青梁香を焚く事あり 其所を集めて私安三年大黒天の像を造ら
るる則背面より其形を記す日蓮上人の真筆なりとあり

此經 尊日蓮日讀以青龍凍之五百滅後流布 是生印

此靈像を日親上人感得あり證書を添らる後横井氏某當寺に収めんと
是生と日蓮大士清澄寺の道善と師と落飾洗衣の後道善命をその名なり
御嶽山清立院 護國寺の裏門より雜司ヶ谷鬼子母神へ移道の右
側小坂より傍より雜司ヶ谷本竜寺の持とす 常唱
堂不安まらるの宗祖上人の靈像日法上人の真作なりとの相傳ふ
正嘉年間關東疫疾流行しる項行脚の沙門此草堂に投宿の間
此地の人を病患を救ひ又別れに臨むの時此靈像を止め置たりと

此影像威靈あり後世前より別像を造り日法上人影堂常唱堂
上人作の像とこの勅諭の形中より収めたりとあり 日親上人影堂常唱堂
の前より元和年間當寺の住僧日意師と 請雨松 堂前より千餘の年八農氏
の沙門感得せし影像なりとあり

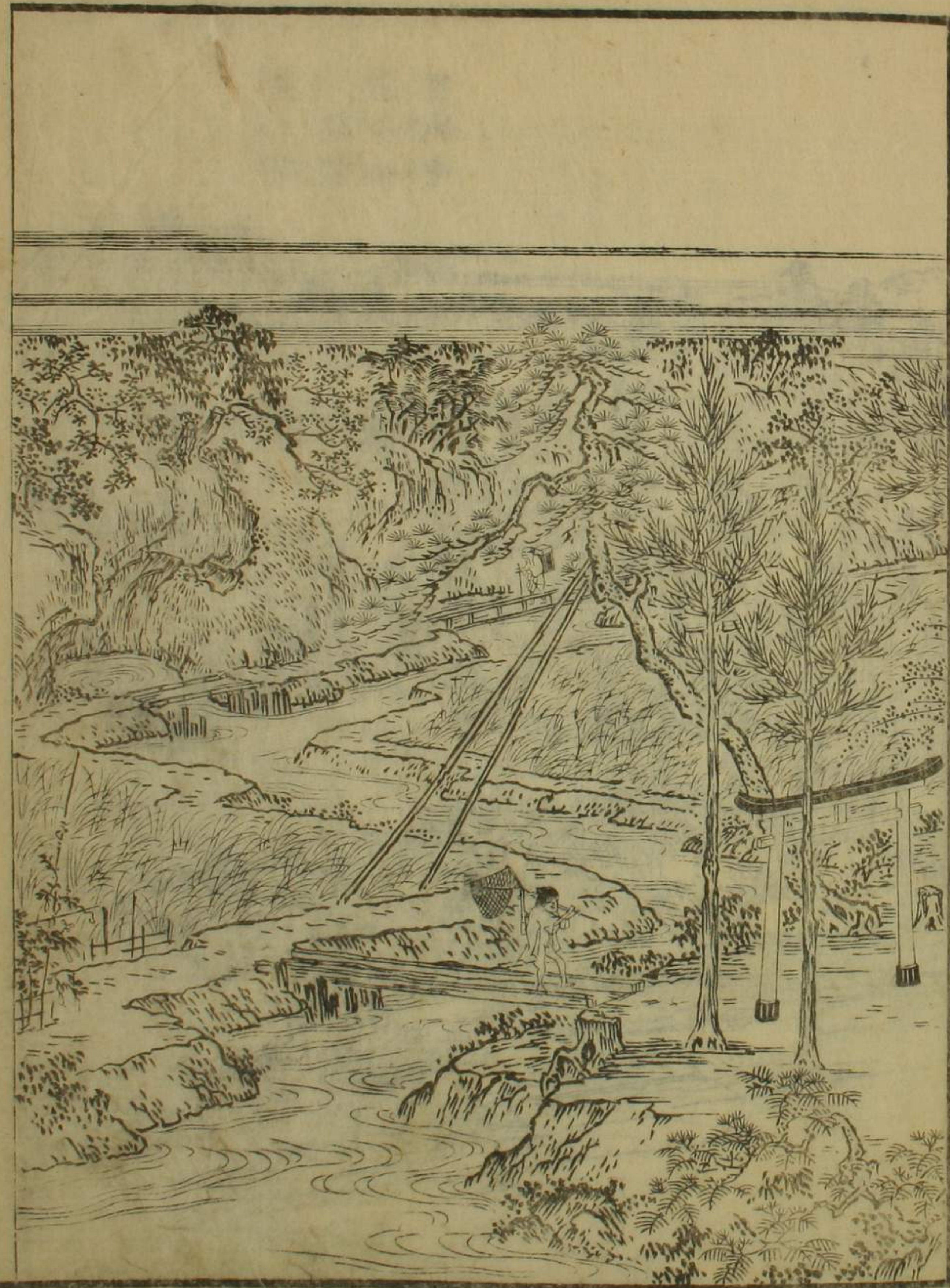
日蓮上人の影像ハ七雨又靈驗ありとて卿人大小信敬せり此樹下は存する所の石
像ハ日意師の影像なり

雜司ヶ谷鬼子母神出現所 本浄寺より南あり此地を清土といふ
蒼林の中より小社あり則雜司ヶ谷鬼子母神出現の地なり同神を
鎮より社前よりある所の井泉を星の清水と号し往古鬼子母神出現
の項此井の星の影を顕現せしありとあり 其井の形三
接あり 井とて字せり

不動山宝城寺 清立院の西の小坂を隔てあり 豆州玉澤の法華
寺に屬す當寺安置の日蓮大士の影像ハ大覺大僧正の作なりと
り諸人結縁の爲正五九月の十三日内拜あり又毎年十月八日より
十八日迄法華經讀誦千部修行あり

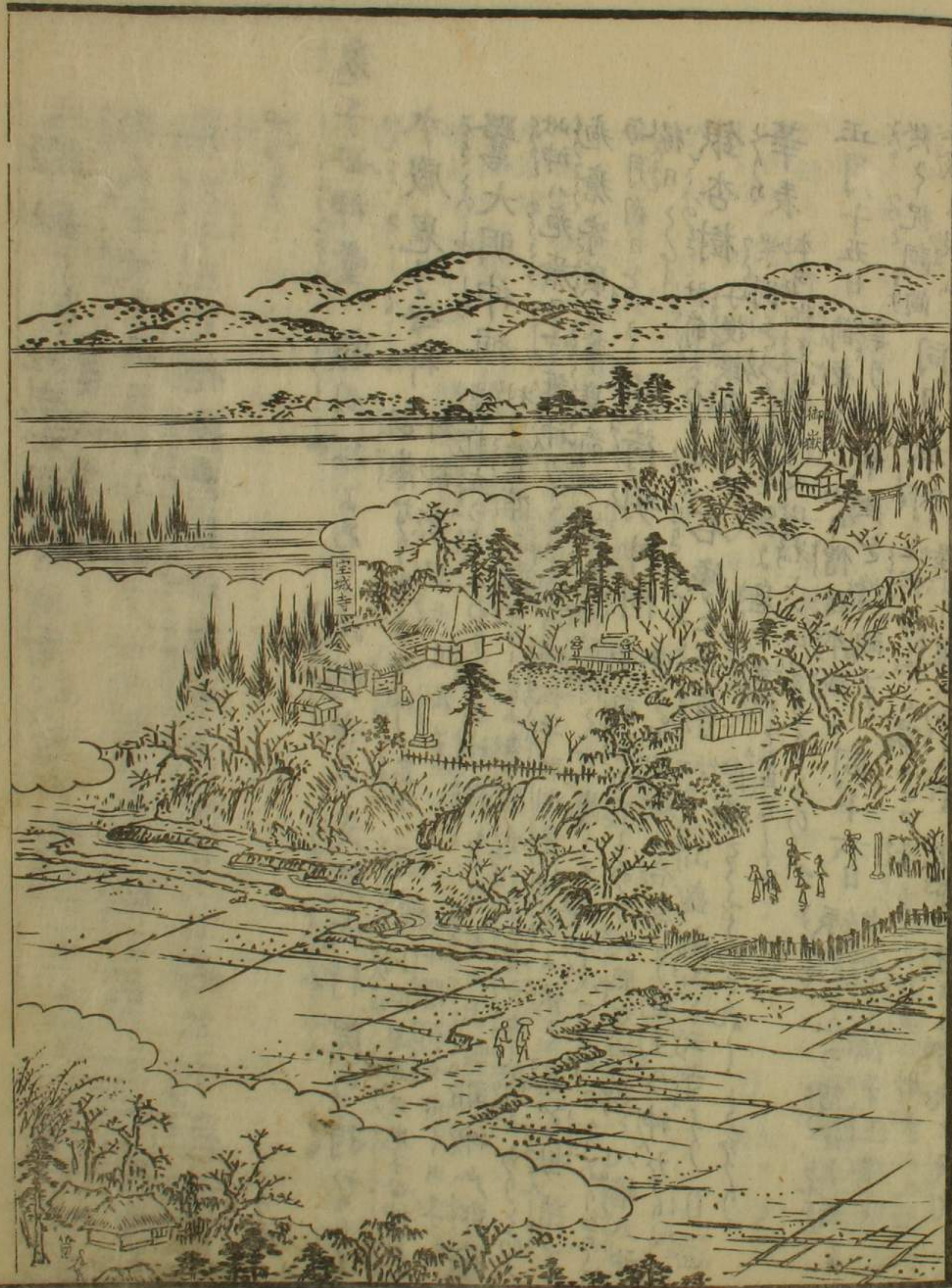
妙永山本納寺 鬼子母神の堂前東の方此小路左の側にあり
法明寺に屬せり當寺に九老僧の像を安んず 九老僧ハ日親上人の
日像 日輪 日典 日澄 日善
日行 日範 朗慶 等あり 當寺ハ慶安三年庚寅寶藏院日相上

日像 日輪 日典 日澄 日善
日行 日範 朗慶 等あり 當寺ハ慶安三年庚寅寶藏院日相上

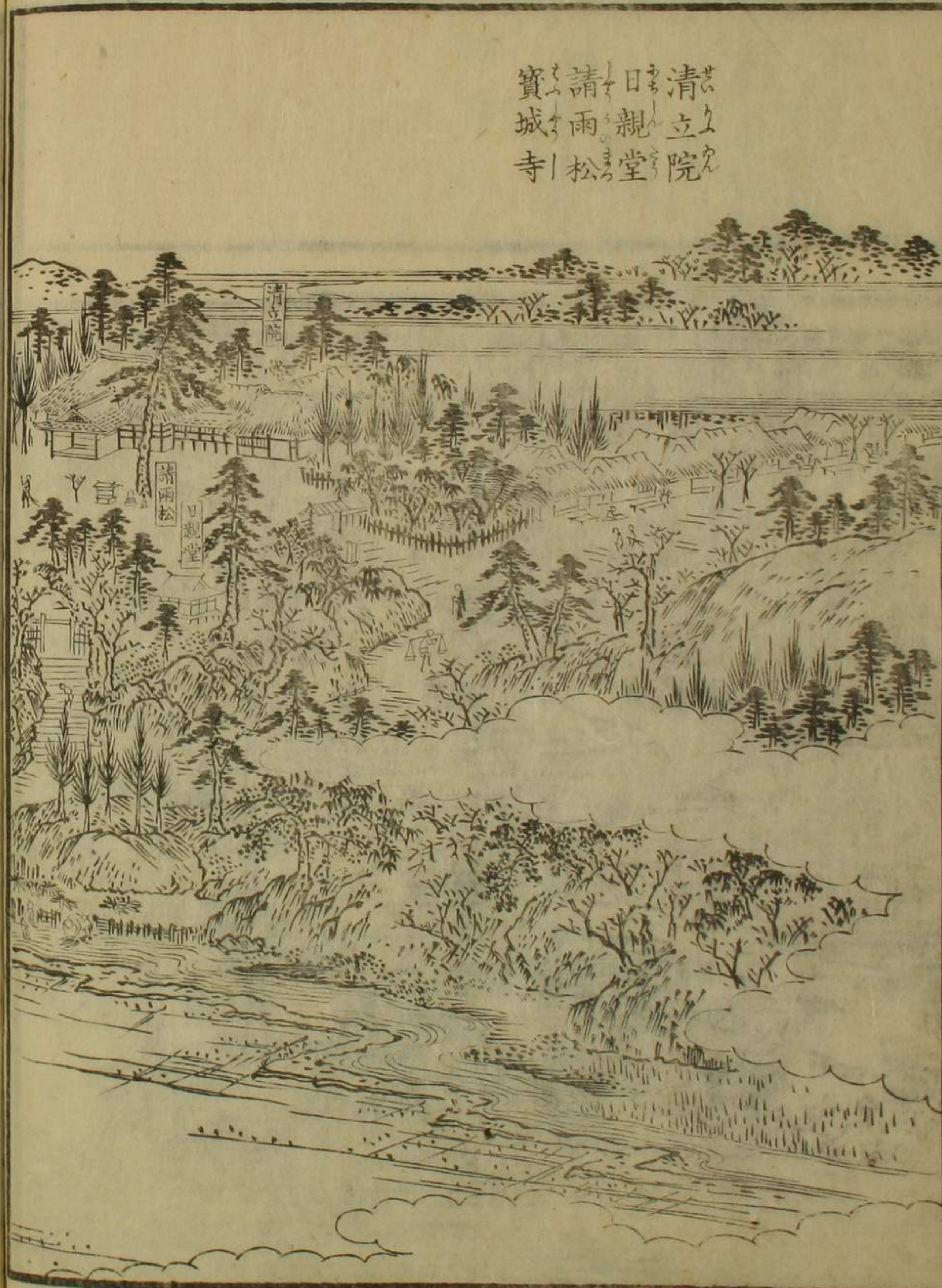


清土
 星の清水
 雞洞谷鬼子母神
 の出現ありし地
 あり七本松と久
 分ハ一松ありと
 ちつよとせり





清立院
日親堂
請雨松
寶城寺



人開基天神地祇人鬼勸情 三宝の諸多なりひふ日月星の三
光天を安を毎月十七日の夕より廿三日の曉より三光同時
昇天の旦を待終夜誦経唱題怠慢なり是と十夜待と
り

鬼子母神堂 雜司谷より法明寺の支院大行院の持なり

本殿鬼子母神 銅像なり鬼子母神一名と相殿 同満具足天鬼子母神の姿

鷲大明神祠 堂前左の方より祭神詳あり或云出雲國神戶郡鷲

此神ハ疱瘡の守護神なり正徳の頃松平州侯神告は依く是を勧請す

毎月初日を以て稻荷明神祠 堂前右の方より天照太神宮と八幡太神

銀杏樹 社前より世よ石像二王尊 和戸山盛南山と云寺より自證

華表 本阿弥光悦の彫人日光上人の書せり

正月十五日 寅夜より一山の僧徒本殿より同十六日 辰刻一山の僧徒本殿より

終り祝詞酒 同日奉射 土浴ひやと唱へて音通し其式ハ射手六人各小

清取らの間式あり後射手壹人やく六筋と放つ都て三拾六筋あり日記付

未配振矢取介添答各式あり射手六人射終つ後一番より次第小屋入り入

此間一山の僧侶又氏子の輩集會し酒五献あて終つ此式天正文祿の頃よりハ

記録も不束あり一寛永十一年長島内匠助戸梁唯兵衛とつる人式と記し

後世小侍人より此長島氏此所の地主あり今大門左右は繁茂 同日 鬼子母神

同十八日 尼修陀羅 四月八日 衣 五月十八日 尼修陀羅 六月十五日

此地の農夫集り社頭の 七月十五日 草角がと真行せり 九月十八日

草刈佛ふ草薙とす 是と衣替あり今日より十八日まで 恭詣群集す 追儼

尼讀誦 十月八日 是と會式詣と云近世ハ廿三日まで 恭詣あり 院主以下一山の

當社の追儼や々男女社壇に群集し誦経唱題をせ聲尤置り院主以下一山の

僧徒内陣小候一陀羅尼品と誦る十三巻終つて是前の供豆以打出を群集

是とひりハ 縁起云此本尊ハ永祿四年辛酉五月十六日此地山本氏田口氏あり者

平子孫今猶 池水小星の現もをえん後牙地を穿ち鉄下は是故

得たりしあり 今護國寺の西小其出現の 依東陽坊弟五世日性師

贈大行院の乃佛殿は安しと云く十有余年を歴し然安房

國の沙門某 日性師は仕へる思ひん密小此靈像を

堂神母子鬼谷司雜



門元
肉衣
川
今



寺明法



五元集
雜司谷
あしんの
其角



菊鶴

代法

々々

内命

法

とせ

雜司谷の會式ハ毎歲
 十月八日より十三日迄修
 行き奉修の業を同く
 六日の比より廿三日の比と
 群集して物産の如
 ち中六者様開本偶
 赤の飾物と綴々
 さまも家世上人一代の
 間の事と送り
 ハハハハ一宗無立
 此功勞と家門の徒
 示さんくや



盜之故郷に帰る 其年天正 忽病を發し一日自口をくらをりて
 我ハ元武州雜司谷あり彼地の衆生機縁既ニ熟ト正小濟度モ
 直小元の地ニ歸ル 時ニ村人大ニ怖ト畏ニ再ハ東陽
 坊ニ迂ル 仍諸人靈威ありを知らず 叢林を闢キ竟ハ天正六年
 戊寅四月十日ニ始ク芥を下リ同五月朔日経営落成シあり
 安置セテ後寛文六年ニ至リ自證院殿新ニ寶殿を造立セシ
 今の本殿是なり 自昌院殿ハ加州
 黄門の息女ナリ 安藝天守の令室ニ
 此地ハ送小都下を離ル 鬼子女神の靈驗著明ク諸頭
 貨食店軒端を連ねり十月の會式ハ殊更群集絡釋トシ
 織子川口屋の船を此地の名産トシ

此地ハ送小都下を離ル 鬼子女神の靈驗著明ク諸頭
 貨食店軒端を連ねり十月の會式ハ殊更群集絡釋トシ
 織子川口屋の船を此地の名産トシ



又當山ハ花の名所あり近年境内ニ櫻教多植く往昔ニ復せ

シメト凡北条家分限帳江戸雜司谷

麥藁細工角兵衛獅子ハ昔高田四ツ家町ニ住一糸との

女子製し初りとの此糸女ニ母一人ありし家貧しく孝

養心のまゝありしを常ニ雜司ヶ谷の鬼子母神へ

詣し深く此を祈願し其至孝の冥慮より

有ん寛延二年の夏麥を以て角兵衛獅子の形と造り

そのりし項雅司谷の鬼子母神こそ參詣多し頃

なほ此獅子を買人夥しく竟ニ麥藁細工のり身

さうえこれハ夫より後ハ心も母を孝ふとの

百度泰寄願ありての社前と往返し百度奉拜を是を俗に百

威光山法明寺 同北の方より支院八宇あり最古刹あり

寂々寺院陣狸ハ鉦作あり

釋迦堂釈迦多宝兩如来の像を致す

祖師堂同釈迦堂の右並中宗祖

銀杏樹同堂前あり

鐘同前あり寛永二十二年甲申鑄せ

二王門左右ニ金剛密迹の像を置く

正月元日同三日迄本坊あり

四月八日誕生會上同日あり

五月十三日釈迦堂あり

七月十五日同前ニ花市立

七月虫拂九月十三日

十月六日同前ニ花市立

同日同日

威光山法明寺

寂々寺院

釋迦堂

祖師堂

銀杏樹

鐘

二王門

正月元日

四月八日

五月十三日

七月十五日

七月虫拂

同日

同十三日御影供俗諺くわりのとく八日あり廿三日迄未迄

相傳ふ當寺ハ弘仁元年庚寅草創や或云慈覺大師往古を真言宗の

道場ありの開創あり正嘉元年丁巳嚴譽律師駿州岩

本の実相寺や日蓮上人の法を聞直宗風を持上人の

弘法より乃法号を嚴譽院日源と称當寺開山是也中

堅秀坊との駿州賀島の実相寺に住を学行群秀との

弦卷川當寺二玉門の前を東流細き溝川を号古ハ布引川とも唱へ

大行院 鬼子母神の別當なり 往古ハ東陽坊と云天正年間

加州侯の始祖前田利家朝臣建立させれり堂内ハ

日蓮上人の徒弟六老僧の影像を安置日像日照日朗日興日向

或人云く此像ハ始谷中感應寺にあり小畑勘兵衛尉景憲檀那

彼寺改宗の頃一軒焼失れ残を當寺へ収め寺なり彫刻しと納むり又自らの肖像あり

當院ハ宗祖歴代の真筆なり以上古の調度をと收藏す

蓮成寺 同東ハ隣る當寺ハ本山十三世日延上人の開創なりと

より十八老僧の像を安け日源日家日保日井日法日傳日位日秀

日忍日門以上 天目日得日合日賢日高日實日禮日祐

十八人なり



